

第8回太平洋・島サミット

実施報告書

〔平成30年5月18日（金）・19日（土）〕



福島県・いわき市

目 次

I. 太平洋・島サミットについて

1. 太平洋・島サミットとは	1
2. 参加国	1
3. これまでの開催	1
4. 第8回太平洋・島サミットの開催経緯	2

II. 第8回太平洋・島サミットの概要

1. 会議概要	4
2. 会議日程	5
3. 参加国・地域及び参加者	6
4. ロゴマーク、広報親善大使	8

III. 福島県主催の歓迎行事

1. 福島県知事主催歓迎昼食会	9
-----------------	---

IV. いわき市主催の歓迎行事等

1. JR 湯本駅での歓迎行事	16
2. 慰霊行事	18
3. スパリゾートハワイアンズでの歓迎行事	22
4. 地元プログラム「ワンダーファーム訪問」	24
5. 記念品贈呈	27
6. 配偶者プログラム「海洋シンポジウム」	30
7. お見送り	33
8. 「太平洋・島まつり 2018 in フラのまち湯本」	35

V. 機運醸成の取組

1. 太平洋・島サミット絆交流事業	38
2. 各種イベントでのPR	41
3. 歓迎横断幕の制作	43
4. 第8回太平洋・島サミット高校生応援隊	46
5. 第9回いわきサンシャインマラソンでのPR	53
6. プレイイベント『ドキドキ島々「舞島祭」in いわき』の開催	54
7. 第8回太平洋・島サミット応援給食の提供	58
8. その他各種広報	59

VI. 開催までの取組

1. 福島県の実施体制	68
2. いわき市の実施体制	68
3. 報道機関対応	72

(資料編)

・太平洋・島サミット第3回中間閣僚会合（結果概要）	73
・「第8回太平洋・島サミット歓迎横断幕」募集要項	76
・「第8回太平洋・島サミット高校生応援隊」募集要項	77
・第8回太平洋・島サミット（結果概要）	78
・第8回太平洋・島サミット（PALM8）首脳宣言	82
・第8回太平洋・島サミットいわき実行委員会規約	92
・第8回太平洋・島サミット地元プログラム提案書	95
・新聞関連記事	105

（本報告書内の氏名・名称及び肩書きについては、事業実施当時のものを記載しています）

I. 太平洋・島サミットについて

1. 太平洋・島サミットとは

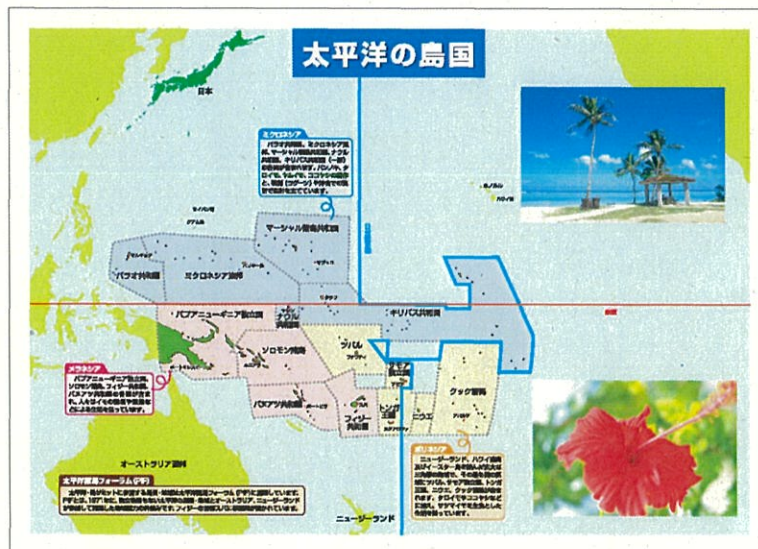
太平洋の島国は親日的で、国際社会において日本を支持してくれる重要なパートナーであることから、これらの国々との関係強化と、同地域の発展に共に取り組むため、3年に一度、日本に太平洋の島国の首脳を招き、防災・環境・開発などの課題について話し合う国際会議。

2. 参加国

原則、太平洋諸島フォーラムに加盟する14か国に加え、オーストラリア、ニュージーランド、日本の首脳等が参加する。

(キリバス、クック諸島、サモア、ソロモン諸島、ツバル、トンガ、ナウル、ニウエ、バヌアツ、パプアニューギニア、パラオ、フィジー、マーシャル諸島、ミクロネシア、オーストラリア、ニュージーランド、日本)

(※第8回サミットは、ニューカレドニア及び仏領ポリネシアも参加。)



3. これまでの開催

- 第1回 平成9年10月〔東京都〕
- 第2回 平成12年4月〔宮崎県 宮崎市〕
- 第3回 平成15年5月〔沖縄県 名護市〕
- 第4回 平成18年5月〔沖縄県 名護市〕
- 第5回 平成21年5月〔北海道 占冠村〕
- 第6回 平成24年5月〔沖縄県 名護市〕
- 第7回 平成27年5月22日(金)・23日(土)〔福島県 いわき市〕
- 第8回 平成30年5月18日(金)・19日(土)〔福島県 いわき市〕

4. 第8回太平洋・島サミットの開催経緯

第8回太平洋・島サミットについては、平成29年1月17日、外務省飯倉公館で行われた太平洋・島サミット第3回中間閣僚会合において、岸田外務大臣より、第8回太平洋・島サミットが、平成30年5月に福島県いわき市で開催される旨の発表がなされ、前回に続いての本市開催となった。



太平洋・島サミット第3回中間閣僚会合での記念撮影。



太平洋・島サミット第3回中間閣僚会合での共同記者会見。

●太平洋・島サミット第3回中間閣僚会合の参加国・代表者

参加国等	代表者
日本	岸田文雄外務大臣
ミクロネシア連邦	ローリン・S・ロバート外務大臣
ナウル	バロン・ディバベシ・ワンガ大統領兼外務・貿易大臣
サモア独立国	トゥイラエパ・ファティアロファ・ルペソリアイ・サイレレ・マリエレガオイ首相兼外務貿易大臣

クック諸島	ヘンリー・プナ首相
ニウエ	ポコトア・ラロトア・シペリ・社会福祉・ 法務・国土測量・ニウエ語保存・教育・ 保険大臣
マーシャル諸島共和国	ジョン・M・シルク外務大臣
パプアニューギニア独立国	リムビンク・パト外務移民大臣
ソロモン諸島	ミルナー・トザカ外務・貿易大臣
バヌアツ共和国	ブルーノ・レンゴン外務・国際協力・貿易 大臣
フィジー共和国	チヨネ・ウサマテ雇用・生産性・産業関係 大臣
パラオ共和国	カスミル・レメンゲサウ特使
ツバル	マッケンジー・キリトメ議会議員兼政府 貿易・観光特使
トンガ王国	タニア・ラウマヌルベ・タラフォリカ・ ツポウ駐日大使
キリバス共和国	テーコア・イウタ・駐日大使
オーストラリア連邦	ダニエル・スローパー外務貿易省第一次官補
ニュージーランド	スティーブン・ペイトン駐日大使
太平洋諸島フォーラム事務局	アンディ・フォン・トイ事務局次長

Ⅱ. 第8回太平洋・島サミットの概要

1. 会議概要

平成30年5月18日（金）と19日（土）の2日間、第8回太平洋・島サミット（The 8th Pacific Islanders Leaders Meeting、PALM8）が福島県いわき市で開催され、日本及び島嶼14カ国、ニュージーランド、オーストラリアに加え、新規参加のニューカレドニア・仏領ポリネシアの2地域を含む19の国と地域の首脳等が参加した。

いわき市のスパリゾート・ハワイアンズでは、政府主催の首脳会議や二国間会談、安倍総理夫妻主催の晩餐会が行われた。また、地元自治体として、福島県やいわき市も歓迎行事や地元プログラムなどを通じてサミットの成功を支援した。

首脳会議では安倍総理とトゥイラエパ・サモア首相による共同議長の下で活発な議論が行われ、「繁栄し自由で開かれた太平洋に向けたパートナーシップ」をキャッチフレーズに、①法の支配に基づく海洋秩序、持続可能な海洋、②強靱かつ持続可能な発展、③人的往来・交流の活性化、④国際場裡における協力の4つの議題を中心に議論を行い、議論の成果として、「PALM8 首脳宣言」を採択した。

安倍総理は、「自由で開かれたインド太平洋戦略」を踏まえ、自由で開かれた持続可能な海洋をPALM8の最も重要な議題として議論し、海における法の支配の重要性に関する認識を共有するとともに海上法執行を含む海上保安分野の能力構築支援や港湾整備等の分野での協力を推進していくことで一致した。

また、太平洋島嶼国の自立的発展を促すための協力として、これまでの実績を踏まえ、従来同様のしっかりとした開発協力を継続するとのコミットメントを表明し、今後3年間で5,000人以上の人材育成・人的交流の実施を約束した。

さらに、地元自治体である福島県及びいわき市との関係では、首脳たちから、おもてなしに対する謝意が表明され、東日本大震災からの復興の着実な進展に対する歓迎の意が示された。



発言する安倍総理大臣

2. 会議日程

【平成 30 年 5 月 18 日（金）】

時間	安倍総理	各国首脳等	各国首脳等配偶者
11:20～	12:01 特急ひたち 7号で湯本駅到着 後、サミット会場（ハ ワイアンズ）へ。 ※市民等（地域住民、地元幼稚園児、高校生応援隊など）による歓迎	11:20 特別列車で湯本駅到着後、 知事昼食会場（パレスいわや）へ。	
12:00～12:50	－	福島県知事主催昼食会（パレスいわや）	
13:45～14:10	慰霊行事（いわき海星高校）		
14:45～15:00	ハワイアンズにおける歓迎 （地域住民、横断幕を制作した小・中学校、高校生応援隊など）		
15:00～18:30	二国間会談 ※半数の国が二国間会談に臨み、残り 半数はワンダーファームを訪問。	－	
16:00～17:00	－	ワンダーファーム訪問（地元プログラム） ※市民等（地域住民、地元幼稚園児、高校生応援隊 など）による歓迎	
19:15～20:30	総理夫妻主催晚餐会（ハワイアンズ）		
20:45～21:00	特別ショー公演		

【平成 30 年 5 月 19 日（土）】

時間	安倍総理	各国首脳等	各国首脳等配偶者
8:30～13:30	第8回太平洋・島サミット首脳会議 ・集合写真撮影 ・開会セッション ・第1セッション、第2セッション ・ワーキングランチ ・閉会セッション ・共同記者発表		海洋シンポジウム (アクアマリンふくしま) ※地元幼稚園児、高校生 応援隊などによる歓迎
13:45～17:00	二国間会談 ※半数の国が二国間会談に臨み、残り 半数はワンダーファームを訪問。	—	
15:00～16:00	—	ワンダーファーム訪問 (地元プログラム)	
17:00～	離市 (帰京) ※安倍総理夫妻は、特急ひたち 26 号(18:22 発)で湯本駅から、その他の首脳等は車で会場から数次に分かれて離市。 ◎高校生応援隊等によるお見送り		

3. 参加国・地域及び参加者

日本及び島嶼 14 カ国、ニュージーランド、オーストラリアに加え、新規参加の 2 地域（ニューカレドニア・仏領ポリネシア）の首脳等、そして太平洋諸島フォーラム(Pacific Islands Forum、PIF)事務局長など、関係者総勢 371 名が参加した。

参加首脳等については次のとおり。

国名等	代表及び御夫人
日本	安倍晋三内閣総理大臣
	安倍昭恵内閣総理大臣夫人
サモア独立国	トゥイラエパ・ファティアロファ・ルペソリアイ・サイレレ・マリエレガオイ首相兼外務貿易大臣
	ジリアン・ムリエル・マリエレガオイ首相夫人
パラオ共和国	トミー・E・レメンゲサウ・Jr. 大統領
ナウル共和国	バロン・ディバベシ・ワンガ大統領兼外務・貿易大臣
	ルイーザ・コラリエ・ワンガ大統領夫人
ミクロネシア連邦	ピーター・マーティン・クリスチャン大統領
マーシャル諸島共和国	ヒルダ・C・ハイネ大統領
キリバス共和国	ターネス・マーマウ大統領兼外務・移民大臣
フィジー共和国	ジョサイア・ヴォレンゲ・バイニマラマ首相兼外務大臣
	マリア・マキタレナ・バイニマラマ首相夫人
クック諸島	ヘンリー・プナ首相兼外務・移民大臣
パプアニューギニア独立国	ピーター・オニール首相
ツバル	エネレ・ソセネ・ソポアンガ首相兼公共事業・インフラ大臣
	サリロ・エネレ・ソポアンガ首相夫人

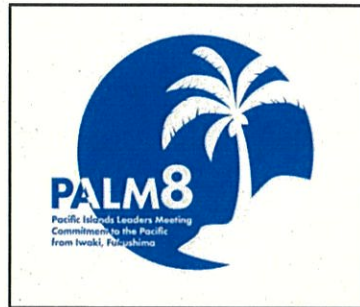
バヌアツ共和国	シャーロット・サルワイ・タビマスマス首相
	マリー・ジャスティン・サルワイ首相夫人
ソロモン諸島	リック・ホウウェニブウェラ首相
	レイチェル・ホウ首相夫人
ニューカレドニア	フィリップ・ジェルマン大統領
ニウエ	ポコトア・ラロトア・シペリ首相代行及び インフラ大臣
ニュージーランド	ウィンストン・ピーターズ副首相兼外務大臣
トンガ王国	セミシ・キオア・ラフ・シカ副首相兼社会基盤・ 観光大臣
オーストラリア連邦	コンチェッタ・フィエラヴァンティ＝ウェルズ 国際開発・太平洋大臣
仏領ポリネシア	ヘレモアナ・マーマトゥアイアフタプ仏領 ポリネシア文化、環境、手工業、エネルギー 大臣、言語促進、コミュニケーション担当大臣
太平洋諸島フォーラム (PIF)	メグ・テイラーPIF 事務局長

4. ロゴマーク、広報親善大使

① ロゴマーク

ロゴマークは、日の丸と、太平洋島嶼国をイメージしたヤシの木及び島を組み合わせ、太平洋をイメージした青で色付ける意匠とすることで、太平洋によって結ばれた日本と太平洋島嶼国の友好関係を表している。

(平成 29 年 7 月～9 月、外務省が募集し、平成 30 年 2 月 8 日同省が決定)



② 広報親善大使

外務省は、前回、前々回に続き、スパリゾートハワイアンズ・ダンシングチーム「フラガール」に第8回太平洋・島サミットの広報業務を委嘱した。「フラガール」は、太平洋島嶼国を起源とする踊りを多く取り入れているなど、太平洋島嶼国との関係が深く、広報親善大使として、様々なイベント等に参加し、PALM8 を積極的に広報するとともに、東日本大震災からの復興をアピールした。



平成 30 年 3 月 28 日 (水)、ホテルニューオータニで行われた「第8回太平洋・島サミット高級実務者会合」レセプションで、岡本外務大臣政務官より委嘱状を受け取るフラガール。

Ⅲ. 福島県主催の歓迎行事

1. 福島県知事主催歓迎昼食会

第8回太平洋・島サミット開催地として、来県する太平洋島嶼国首脳等を歓迎するため、福島県知事主催の昼食会を催した。

① 日 時 平成30年5月18日（金）11時40分～13時5分

② 場 所 パレスいわや 1階 シェリークラブ

③ 出席者 101名

国 外：太平洋島嶼国首脳夫妻、各国代表、

太平洋諸島フォーラム事務局長、各国随員

日本政府：堀井巖 外務大臣政務官

鯨博行 外務省アジア大洋州局参事官（第8回太平洋・島サミット準備事務局長）

国会議員：県選出国会議員又は代理

関係機関：洲崎毅浩 二本松青年海外協力隊訓練所長

重岡純 日本貿易振興機構福島貿易情報センター所長

小林泉 太平洋協会理事長、斎藤龍三 太平洋諸島センター所長

福 島 県：内堀雅雄 知事、吉田栄光 県議会議長、大島幸一 生活環境部長

阿部雅人 いわき地方振興局長

いわき市：清水敏男 市長、菅波健 市議会議長

県内関係者：遠藤栄作 福島県町村会長、村上昭正 福島県町村議会議長会長

寺主公男 いわき経済同友会常任幹事

佐藤一美 いわき地区商工会連絡協議会長

元木寛（株）ワンダーファーム代表取締役

高荒昌展 福島県観光物産交流協会理事長

小檜山均 福島県国際交流協会専務理事、県内在住島嶼国出身者

④ プログラム

（ⅰ）開会

（ⅱ）歓迎挨拶 : 内堀雅雄 福島県知事

（ⅲ）島嶼国代表挨拶 : トウイラエパ・ファティアロファ・ルペソリアイ・
サイレレ・マリエレガオイ首相兼外務貿易大臣
（サモア独立国、PALM8 共同議長）

（ⅳ）乾杯 : 清水敏男 いわき市長

（ⅴ）閉会

「パレスいわや」に到着した首脳等一行は、内堀知事等の出迎えを受けた後、昼食会会場である「シェリークラブ」へ移動し、和やかなムードで昼食会が始まった。



トゥイラエパ・サモア独立
国首相夫妻を入口でお出迎
えする内堀知事。

冒頭、内堀知事は、出席者に対する歓迎の意を表し、第8回太平洋・島サミットが、前回に続き本県で開催されたことを大変光栄に思うとともに東日本大震災に対する各国からの支援にあらためて感謝する、また、この機会に是非、福島県の美しい自然や豊かな食、伝統文化、そして、県民の温かいもてなしに触れていただき、本県の様々な魅力を各国でお伝えいただきたいとの挨拶を述べた。

これに対し、トゥイラエパ・サモア独立国首相兼外務貿易大臣から、地元からの歓迎に対する謝意が示された。



福島県知事 歓迎挨拶



島嶼国代表（サモア首相）挨拶

挨拶に引き続き、清水いわき市長の発声による地元いわき市の銘酒「大吟醸又兵衛」での乾杯のあと、会食及び懇談の時間となった。



いわき市長による乾杯挨拶。

会場には、いわき市の伝統工芸品である「いわき絵のぼり」に各国の国旗をあしらったものを掲揚するとともに、各テーブルには「万両べこ」を飾った。

また、パフォーマンスとして、地元の琴奏者である松井しのぶ氏による演奏が行われた。



いわき絵のぼり



地元奏者による琴演奏



地元のワイン等飲料

メニューの考案にあたっては、いわき市の HAGI フランス料理店の萩春朋シェフほか、地元の料理人により創作され、福島県産食材をふんだんに使用して提供された。また、飲料についても地元の酒、ワイン、ソフトドリンクが提供された。

内容については、「和」のおもてなしをコンセプトとし、弁当箱のスタイルに盛り付けが行われた。BEAMS と磐城高箸とのコラボレーションで作成された、間伐材を使用した杉割り箸や、小松道男氏が開発した植物由来のプラスチックカップ等、福島県関連の食器も使用された。

食事のサーブ係についても着物で配膳を行い、和のコンセプトで統一した。

また、食事制限がある方に対し、アレルギー、ハラル対応の食事を提供した。

Menu		Drink Menu	
[A]	いか人参 (郷土料理：泉北地域) 根っこしそ巻 (漬物：いわき市産)	[B]	又兵衛大吟醸 【いわき市】(合) 四家酒造店 軽めの辛口赤ワイン。
[B]	ウニの目焼き (郷土料理：いわき地域) カツオの焼浸し パブリカ添え (郷土料理：いわき地域、パブリカ：いわき市産)	[C]	KOSYU&CHARDONNAY2016 【いわき市】 いわきワイナリー 甲州をベースにシャルドネを ブレンドした辛口白ワイン。
[C]	阿武隈メープルサーモンの塩焼き (西郷村名産) サンマのみりん干し (いわき市名産) メヒカリの干物 (いわき市名産) 肉団子、アスパラ、鶴山高原豚ベーコンの串打ち (川俣ジャモ、鶴山高原豚ベーコン、喜多方市産アスパラ)	[D]	KOSYU2016 【いわき市】 いわきワイナリー きりっとした辛口白ワイン。
[D]	福島和牛のサイコロステーキ (福島産和牛) 鶴山高原豚のヒレカツ (福島県産鶴山高原豚) トマトのチーズ詰め (いわき市産、南会津産) 枝豆 (いわき市産)	[E]	DELAWARE2016 【いわき市】 いわきワイナリー
[E]	うなぎのバラちらし (田村市産うなぎと福島県産天のつよ)	[ソフトラドリンク]	ももしぼり 【福島市】 古山東樹園
[F]	粽寿司 2 種 (阿武隈産メープルサーモン、常磐産ヒラメ) 煮卵 (いわき市産卵使用)		奥会津金山 天然水 【会津市】 株式会社ハーベス
[汁物]	こづゆ (郷土料理：会津地方、会津地蔵、いわき産蒟蒻、福島県産豆腐使用)		
[和菓子]	季節の上生菓子 3 種 ①海風 ②ハイビスカス ③摩子の木		

福島県知事主催歓迎昼食会 メニュー



昼食会で供された料理



進行は英語で行われ、各テーブルには通訳者を配置した。

13 時 5 分、昼食会は時間どおりに終了し、首脳等一行は次のプログラムである慰霊行事のため、13 時 20 分にいわき海星高校へ出発した。

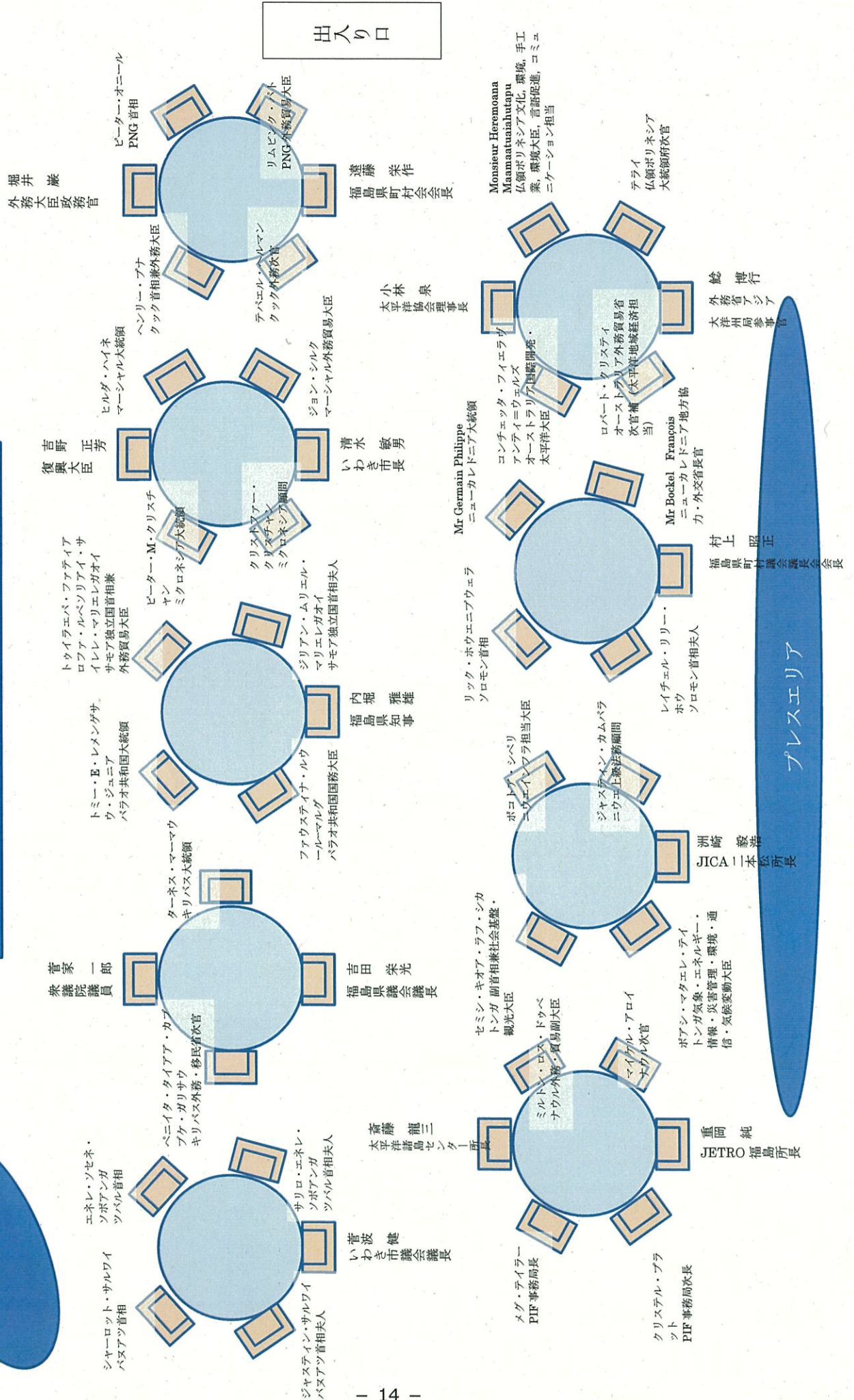
なお昼食会会場については、晴天時は白水阿弥陀堂境内が予定地であり、晴天時、雨天時の 2 会場を候補として準備を進めてきたが、昼食会前日の天候判断により、雨天会場での実施となった。

昼食会場レイアウトA会場（雨儀）

ステージ

場

出入口



昼食会場レイアウトB会場（雨儀）

- 【キリバス 3名】
- ①アニー・タバノウ・クワン・シグ・シオセ在台湾キリバス大使館臨時代理大使
 - ②ベレシタラ・ネエス大統領秘書官
 - ③マウレレイ・タンガタウリ副官
- 【フィジー 3名】
- ①フアイヤズ・コヤ産業・貿易・観光・土地・鉱物資源大臣
 - ②ヨグシュ・シテンドラ・カララン首相府次官
 - ③ラトウ・イシレリ・タンギバカティニ首相秘書

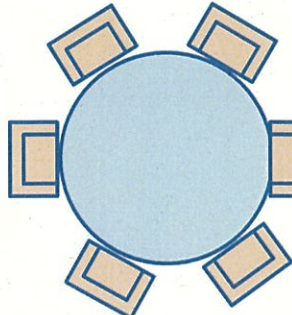
- 【ツバル 3名】
- ①イサイア・ターベ議会議員
 - ②メラリ・ターベ議会議員夫人
 - ③警護官
- 【バヌアツ 3名】
- ①グレゴワール・ニンプティク首相府次官代行
 - ②イボン・バジル外務国際協力省副次官
 - ③ローレン・サイアバ首相警護官

- 【サモア 3名】
- ①ロアウ・ソラマレマロ・ケネディ・シオ敬育・スポーツ文化大臣
 - ②ベセタ・ヌメア・シミ外務貿易省次官
 - ③フアララガアウ・ベリナ・ジャクリン・シラ・ツアラウレレイ特命全權大使
- 【パラオ 3名】
- ①レブルード・ケソレイ官房副長官
 - ②マツタロウ・ウヰラバオ大使
 - ③マツタロウ・ウヰラバオ大使夫人

- 【ミクロネシア 3名】
- ①マリオン・ヘンリー資源・開発大臣
 - ②アンソンドリ・エ・ヤティルマン環境・気候変動・危機管理大臣
 - ③ジョン・フリッツ在京FSM大使
- 【マーシャル 3名】
- ①オオタ・キシノ/マーシャル諸島地方政府会長
 - ②リーナ・ルーシー・キチナー・キシノ/マーシャル諸島地方政府会長夫人
 - ③クリストファー・デグナム大統領首席補佐官

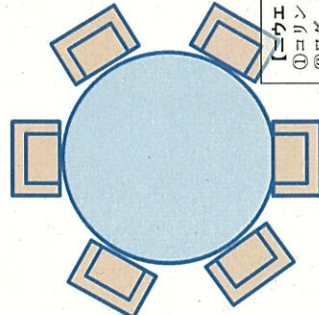
- 【クック 1名】
- ①バトリシア・サッチャーニューニュー副顧問
- 【パプアニューギニア 3名】
- ①ハカウア・ハリ国家計画次官
 - ②マロ在京臨時代理大使
 - ③クネ首相警護官

小川 昌昭
議員秘書



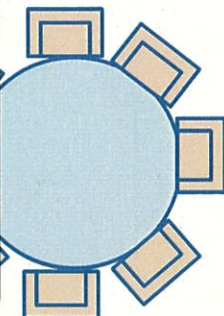
小川 昌昭
議員秘書

金子恵美衆議院議員秘書

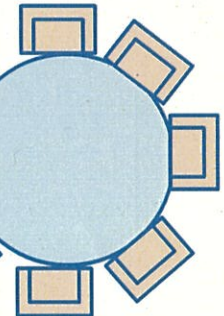


- 【ニューエ 3名】
- ①コリン・ツキトンガSPC事務局長
 - ②ワダ タイイチ首相顧問 (仮)
 - ③ジェイソン・ヴェモア日ニューエ友好協会会長
- 【ニュージージーランド 1名】
- ①テッサ・ヴァースティン等書記官

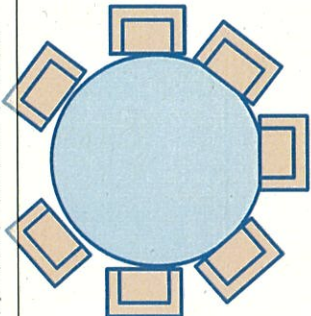
寺主 君男
常任幹事
いわき経済同友会



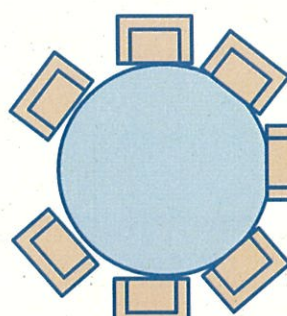
阿部 雅人
いわき地方振興局局長



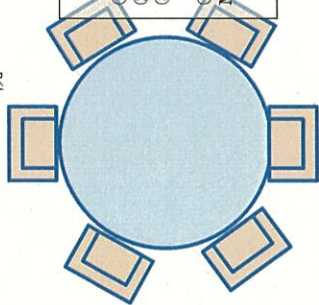
大島 幸一
福島県生活環境部長



高荒 昌展
福島県観光物産交流協理理事長

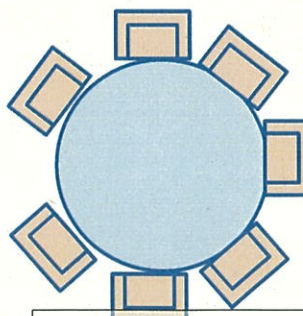


元木 寛
(株)ワンダーファーム代表取締役



- 【ソロモン 3名】
- ①ミルナー・トサカ外務貿易大臣
 - ②ジェームズ・レモバトウ内閣秘書官
 - ③David Tau SOAKAI 首相警護官
- 【ニューカレドニア 1名】
- ① Mr Naoua Jimmy / Advisor Multilateral Division - Govt NC

永田 リセ
島根県出身



佐藤 一美
いわき地区商工会会長

- 【トンガ 3名】
- ①タニア・フシツワガ大使
 - ②ハワラ・ボウヴァル・マウ象・エネルギー・情報・気候変動・環境・通信・気候変動次官
 - ③カーティス・トウワイハランギ外務省典拠担当次官補
- 【オーストラリア 1名】
- ①コート在京参事
- 【仏ポリネシア 1名】
- ① (通訳)
- 【PIF 1名】
- ①ジェームズ・モアビック FFA事務局長

出入り口

IV. いわき市主催の歓迎行事等

1. JR 湯本駅での歓迎行事

- ① 日 時 平成 30 年 5 月 18 日(金) 11 時 20 分頃～12 時 10 分頃
- ② 場 所 JR 湯本駅前
- ③ 対 象 参加各国首脳等（特別列車にて、11 時 20 頃湯本駅到着）
安倍総理夫妻（特急ひたち 7 号にて、12 時 1 分に湯本駅到着）
- ④ 参加者 鈴木正晃 福島県副知事
渡辺仁 いわき市副市長
第 8 回太平洋・島サミット高校生応援隊 33 名
学校法人まこと学園 まこと幼稚園 園児 約 20 名
フラ女将 8 名、市民など 約 100 名



首脳等の到着を待つ地元幼稚園児たち。



プラットフォームに降り立つ首脳たち。



一行を握手で迎え入れる鈴木副知事。



トンガ王国・シカ副首相兼社会基盤・観光大臣を歓迎する園児たち。



オーストラリア連邦・フィエラヴァンティ＝ウェルズ国際開発・太平洋大臣を歓迎する園児たち。



安倍総理を歓迎する園児たち。

※12 時 5 分頃、安倍総理夫妻は、スパリゾートハワイアンズに向かった。



サミット開催中における湯本駅前広場駐車場の利用制限を知らせる看板。

(平成 30 年 5 月上旬設置)



湯本駅前周辺の交通規制お知らせの看板。

(平成 30 年 5 月上旬設置)

2. 慰霊行事

東日本大震災の犠牲者に対する哀悼の意を捧げるため、安倍晋三内閣総理大臣夫妻とサミット参加国・地域・関連機関の代表者等が、震災で被災したいわき海星高等学校で執り行われた慰霊行事に参列した。冒頭の吉野正芳復興大臣及び内堀雅雄福島県知事による挨拶に続き、清水敏男いわき市長が被災状況と防災・復興の取組の説明を行い、その後、同校生徒有志がいわきの伝統芸能「じゃんがら念仏踊り」を披露した。

最後に、安倍総理夫妻及びトウイラエパ・サモア独立国首相夫妻が、参加者を代表して、献花を行った後、参加者全員で黙とうし、哀悼の意を捧げた。

① 日 時 平成 30 年 5 月 18 日（金） 13 時 45 分～14 時 10 分

② 場 所 福島県立いわき海星高等学校 体育館

③ 出席者 約 100 名

国 外：太平洋島嶼国等首脳等

太平洋諸島フォーラム事務局長、各国随員 他

日本政府：安倍晋三 内閣総理大臣、安倍昭恵 内閣総理大臣夫人

吉野正芳 復興大臣

西村康稔 内閣官房副長官

園浦健太郎 内閣総理大臣補佐官

堀井巖 外務大臣政務官

長谷川榮一 内閣総理大臣補佐官兼内閣広報官

谷口智彦 内閣官房参与

兼原信克 内閣官房副長官補

森健良 外務審議官

今井尚哉 内閣総理大臣秘書官、鈴木浩 内閣総理大臣秘書官

佐伯耕三 内閣総理大臣秘書官、大石吉彦 内閣総理大臣秘書官

鯨博行 外務省アジア大洋州局参事官（第 8 回太平洋・島サミット準備事務局長）

近藤紀文 内閣官房副長官秘書官

福 島 県：内堀雅雄 知事、吉田栄光 県議会議長

いわき市：清水敏男 市長、菅波健 市議会議長

地元区長等及び震災遺族：永崎区区長 秋山和夫 氏

下神白第 1 区区長 田中清隆 氏

下神白第 2 区区長 服部陽一 氏

遺族 小松純子 氏

遺族 根本利恵子 氏

④ プログラム

- (i) 開式
- (ii) 復興大臣挨拶
- (iii) 福島県知事挨拶
- (iv) いわき市長による被災状況と防災・復興の取組の説明
- (v) いわき海星高校生徒によるじゃんがら念仏踊りの披露
- (vi) 献花（安倍総理夫妻、サモア首相夫妻）
- (vii) 黙とう
- (viii) 閉式



被災状況と防災・復興の取組の説明用
パネル。



地元区長等と言葉を交わす安倍総理夫妻。



各国首脳等を出迎える安倍総理夫妻。



福島県知事による挨拶。



いわき市長による被災状況と
防災・復興の取組の説明。



いわき海星高校生徒による
じゃんがら念仏踊りの披露。



安倍総理夫妻及びサモア首相夫妻
による献花。



献花後に、全員で黙とうし、震災犠牲者に哀悼の意を捧げた。

14 時 10 分、慰霊行事は時間どおりに終了し、首脳等一行は、国別の車両に分かれ、車列を組んでサミットのメイン会場であり、宿泊先でもあるスパリゾートハワイアンズに向かった。

なお、慰霊行事会場については、晴天時（いわき海星高校体育館脇の屋外）、雨天時（同校体育館）の 2 会場を候補として準備を進めてきたが、前日の天候判断により、雨天会場（同校体育館）での実施となった。

3. スパリゾートハワイアンズでの歓迎行事

- ① 日 時 平成 30 年 5 月 18 日（金） 14 時 45 分頃～15 時頃
- ② 場 所 スパリゾートハワイアンズ
- ③ 対 象 安倍総理夫妻、参加各国首脳等
- ④ 参加者 歓迎横断幕を制作した小・中学校の児童生徒 約 250 名
第 8 回太平洋・島サミット高校生応援隊 15 名
市民など 約 50 名



歓迎横断幕を掲げ、首脳等の到着を待つ生徒たち。



各国首脳等を歓迎する様子。

各国の車両が到着すると子供たちや市民は横断幕や手旗を振って、盛大に出迎えた。



安倍総理を歓迎する生徒。

安倍総理夫妻は、スパリゾートハワイアンズで車両から降り、歓迎のため待機していた子供たちと握手を交わしたり、ハイタッチするなど積極的に触れ合いながら、モノリスタワーに入った。



フィジーのバイニマラマ首相と握手を交わす児童。

子供たちの熱烈な歓迎に感激した首脳たちは車両から降りて、子供たちと握手をしたり、一緒に写真を撮るなど触れ合う場面が多く見られた。



ホストタウン事業の一環で、サミットの開催に合わせ招聘したサモアの高校生ラグビー選抜チームと一緒にサモア・トゥイラエパ首相夫妻を歓迎する子供たちと広報親善大使を務めるフラガール。



サモアの高校生ラグビー選抜チームと一緒に写真撮影をするサモア・トゥイラエパ首相夫妻。

※トゥイラエパ首相は同国ラグビー協会の会長も務める。

15 時過ぎには、各国首脳は全員宿泊するモノリスタワーに入り、その後、当日、二国間会談を予定している首脳等はハワイアンズにそのまま残り、二国間会談を予定していない首脳等は地元プログラムでワンダーファームを視察するため、同ファームに向かった。

4. 地元プログラム「ワンダーファーム訪問」

① 日 時 平成 30 年 5 月 18 日（金） 16 時～17 時
平成 30 年 5 月 19 日（土） 15 時～16 時

② 場 所 ワンダーファーム

③ 参加者 約 30 名（各日）

国 外：太平洋島嶼国等首脳等、各国随員

日本政府：安倍昭恵 内閣総理大臣夫人（18 日のみ）

吉野正芳 復興大臣（18 日のみ）

いわき市：清水敏男 市長（18 日のみ）

渡辺仁 副市長（19 日のみ）

ワンダーファーム：元木寛 代表取締役

④ プログラム

～お出迎え～（久之浜第一幼稚園園児、高校生応援隊、市民等）

（i）歓迎挨拶〔いわき市長（いわき市副市長）〕 [温室ハウス内]

（ii）トマト栽培の説明（元木代表）

トマトの試食

（iii）加工品等に関する説明（元木代表） [直売所内]

トマトジュースの試飲

（iv）企業ブース等の視察

[屋外（駐車場等）]

（v）はしご乗り等の鑑賞（いわき市消防団、いわき市技能職団体連絡協議会）

～お見送り～（久之浜第一幼稚園園児、高校生応援隊、市民等）



首脳等を歓迎する地元幼稚園児たち。



首脳等を歓迎する高校生応援隊たち。



温室ハウス内での記念撮影。



トマトの栽培方法等について説明する
元木代表。



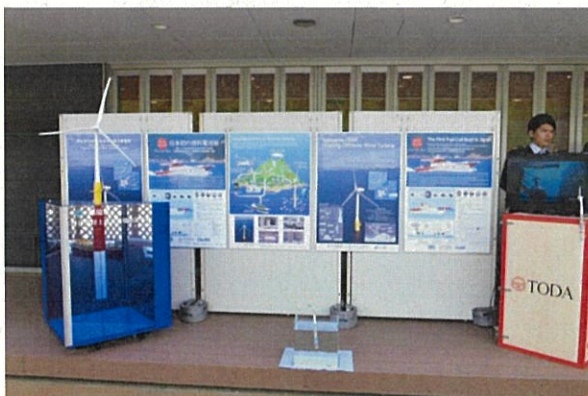
ハウス内のトマトを実際に手に取り、
試食する各国首脳等。



直売所において、トマトジュースを試飲しながら、同施設の6次産業化の取組に関する説明に聞き入る各国首脳等。



直売所の外では、環境関係企業等がそれぞれに取り組んでいる再生可能エネルギー等のプロジェクト等について説明するブースを設置した。



(企業ブースの一例)

[戸田建設]

浮体式洋上風力発電と水素による離島の脱炭素化を説明するパネル等



日本特有の文化の一端に触れていただくため、いわき市消防団やいわき市技能職団体連絡協議会によるはしご乗りや纏振り等の披露も行われた。

5. 記念品贈呈

いわき市からの記念品として、いわき市消防団の法被をベースにしたオリジナルデザインの法被を市長から各国首脳夫妻等に贈呈した。

〔※被災地である本市からの記念品として、地域防災の要として東日本大震災時はもとより、平素から地域の安全・安心を守るため活躍している「いわき市消防団」が愛用している法被を選定した。〕

① 贈呈日時 平成 30 年 5 月 18 日(金) 18 時 30 分頃～19 時頃

② 贈呈場所 スパリゾートハワイアンズ内



トウイラエパ サモア首相



レメンゲサウ パラオ大統領



ワンガ ナウル大統領



ハイネ マーシャル諸島大統領



マーマウ キリバス大統領



バイニマラマ フィジー首相



プナ クック諸島首相



オニール パプアニューギニア首相



ソポアンガ ツバル首相



サルワイ バヌアツ首相



ホウウェニプウェラ ソロモン諸島首相



ジェルマン ニューカレドニア大統領



シペリ ニウエ首相代行



ピーターズ ニュージーランド副首相



シカ トンガ副首相



フィエラヴァンティ=ウェルズ
オーストラリア国際開発・太平洋大臣



マーマトゥアイアフタブ
仏領ポリネシア文化、環境、手工業、
エネルギー大臣、言語促進、コミュニ
ケーション担当大臣



テイラー 太平洋諸島フォーラム
(PIF) 事務局長

6. 配偶者プログラム「海洋シンポジウム」

アクアマリンふくしまで海洋シンポジウムが開催され、各国首脳配偶者が自国での海洋保護に関する取組を紹介したほか、スプリング・米国モンレーベイ水族館副館長などをはじめとする水族館関係者やいわき海星高校生徒が海洋に関するプレゼンテーションを行い、海洋資源・環境保護、海と人とのつながり等に関して意見交換した。

- ① 日 時 平成 30 年 5 月 19 日（土）10 時～12 時
- ② 場 所 アクアマリンふくしま マリンシアター
- ③ タイトル 「Ocean for the Future シンポジウム～海は世界をつなげる～」
- ④ 出席者 約 200 名

国 外：マリエレガオイ サモア独立国首脳夫人
ワンガ ナウル共和国大統領夫人
バイニマラマ フィジー共和国首相夫人
ソボアンガ ツバル首相夫人
サルワイ バヌアツ共和国首相夫人
ホウ ソロモン諸島首相夫人
マルグ パラオ共和国国務大臣夫人
各国随員

日本政府：安倍昭恵 内閣総理大臣夫人

いわき市：清水敏男 市長

そ の 他：一般聴講者

- ⑤ 当日の流れ ～お出迎え～（わかぎ幼稚園園児、高校生応援隊、市民等）
海洋シンポジウム
館内見学
- ⑥ その他 館内見学後、テラスにて、安倍総理夫人主催昼食会を開催。

〔昼食会献立〕

ローストビーフ（常陸牛）、トマト昆布じめ、焼きアスパラガス、
山椒味噌の焼き魚、玉子豆腐、
煮物（蒟蒻・蓮根・椎茸・牛蒡・絹さや・南瓜）、
手まり寿司 7 種（蒸し海老・鯛の昆布じめ・鯛の炙り・卵＋イクラ・
桜＋蓮根・生ハム＋わさび漬け・サーモン）
（おすまし）胡麻味噌入り白玉、結びエノキ、鶏ササミ、三つ葉
（デザート）アールグレイのシフォンケーキ、フルーツ、コーヒー



各国首脳等配偶者を歓迎する高校生応援隊たち。



各国首脳等配偶者を歓迎する地元幼稚園児たち。



各国首脳等配偶者を囲んでの記念撮影。



前日5月18日(金)のスパリゾートハワイアンズでの歓迎時に使用した各国の歓迎横断幕(計17枚)をアクアマリン内に掲げ、歓迎の意を示した。



シンポジウムでは、ナウル、フィジー、ツバルの首脳夫人等が登壇し、自国での海洋保護に関する取組などを紹介した。



シンポジウムの司会・進行は高校生応援隊が担当し、スムーズな会議運営に努めた。



シンポジウム後は、館内ツアーが行われ、高校生応援隊が館内の案内や各水槽の説明を英語で行った。



昼食会では、安倍総理夫人から各国首脳等配偶者に対し、改めて訪日の歓迎と同シンポジウム出席の謝辞が伝えられ、同夫人と各国首脳配偶者との歓談を通じ、交流が深められた。

7. お見送り

来訪にあたっての感謝の意を伝えるとともに、帰路の無事を願い、高校生応援隊を中心に、安倍総理と各国首脳等をお見送りした。

① 日 時 平成 30 年 5 月 19 日 (土) 午後

② 対 象 参加各国首脳等 (スパリゾートハワイアンズ モノリスタワー前)
安倍総理夫妻 (J R 湯本駅前)

③ 参加者

福 島 県 : 大島幸一 生活環境部長

いわき市 : 渡辺仁 副市長

そ の 他 : 高校生応援隊 33 名
市民など



スパリゾートハワイアンズにおいて、
各国首脳等のお見送りを行う様子。

写真はワンガ ナウル大統領夫妻。



横断幕を持って、安倍総理夫妻の
到着を待つ高校生応援隊。



関係車両が湯本駅前に到着する様子。



湯本駅前に到着した安倍総理夫妻。



安倍総理を囲んで記念撮影する高校生
応援隊。



お見送り後、2日間の全ての業務が終了し、
サミットの成功を祝う高校生応援隊。

8. 「太平洋・島まつり 2018 in フラのまち湯本」

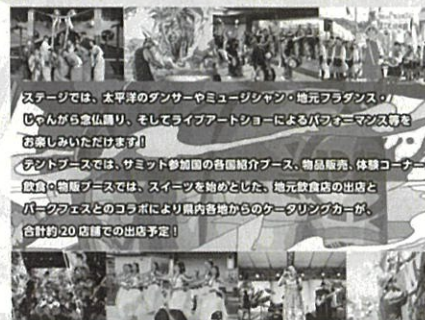
島サミットの開催に併せ、音楽ライブ・アート・ダンス・飲食を通した太平洋親善イベントを開催し、当日は気候にも恵まれ多くの来場者で賑わった。

また、安倍総理夫妻がJR湯本駅から帰京する際、同イベントに立ち寄り、来場者と握手をしたり、一緒に写真を撮るなどして触れ合っていた。

- ① 日 時 平成 30 年 5 月 19 日 (土) 11 時～19 時
- ② 場 所 JR 湯本駅前 特設会場
- ③ 主 催 太平洋・島まつり実行委員会
- ④ 後 援 外務省、福島県、いわき市、一般社団法人 太平洋協会 (ほか)
- ⑤ 協 力 PacificRoots project、GardenGrove、Coincidence, inc、Vespa、一般社団法人 レインボーネシア
- ⑥ 出 演 ART / Dragon76(from N.Y)、KensukeTakahashi
LIVE / CHAN-MIKA BAND、miya takehiro、
パイン・カマアイナス
DANCE / トンガ王国ダンス、Welina Mahalo (湯本高校フラダンス部)、湯本温泉 フラ女将、いわき湯本温泉連合青年会
有志会、初代フラガール、いわき青年会議所、まこと幼稚園 他



いわき市にて開催される「第8回太平洋・島サミット」の開催に伴い、湯本駅前にて、音楽・アート・ダンス・飲食を通した太平洋友好親善イベント「太平洋・島まつり2018 in フラのまち湯本 - Pacific Island Party -」が開催決定
It will be held in Iwaki City, Fukushima Prefecture "The 8th Pacific Islands Leaders Meeting" With that event, at Yumoto station in Iwaki City, Fukushima, Pacific friendship goodwill event through music live art・dancing and drinking, ~ Pacific Island Party ~



ART Dragon76(from N.Y), Kensuke Takahashi
LIVE CHAN-MIKA BAND, miya takehiro, パイン・カマアイナス, 津軽三味線孝喜会, DAKEI with ChanBand
DANCE トンガ王国ダンス, サモアダンス, Welina Mahalo (湯本高校フラダンス部), 湯本温泉フラ女将, いわき湯本温泉連合青年有志会, カレイ・モキハナ・オニマサ子本団, モキハナ・フラ・オハナ, いわき青年会議所, クアラ・オナオナ・メ・カ・レファ 稲庭校, ハワイアンズダンスチーム, まこと幼稚園 他
SELECTOR DJ MEGUMUSIX, DJ SICK(A.B.E record), DJ MABA 他
MC 稲崎あずさ

お問い合わせ いわき市官営湯本町天王庵39-1(いわき湯本温泉旅館協同組合内) 電話番号:0246-43-3017

「太平洋・島まつり 2018 in フラのまち湯本」のチラシ。



会場を盛り上げる音楽ライブ。



大きなキャンパスに、そのとき
感じたままを即興で描く、ライ
ブアートパフォーマンス。



フラ女将によるフラショー。



サモアの高校生ラグビー選抜
チームによるサモアンダン
ス。



会場内では、飲食ブースの他、様々なブース出展があり、多くの来場者での賑わいをみせた。



太平洋の島国に関するパネル。



IWAKI アロハを着用し、来場者とふれあういわき市のゆるキャラ「フラおじさん」。



イベントを視察する安倍総理

V. 機運醸成の取組

1. 太平洋・島サミット絆交流事業

① 概要等

平成 29 年 8 月 7 日（月）から 9 日（水）まで、日本で学ぶ太平洋島嶼国からの留学生 19 名を福島県に招き、太平洋・島サミット絆交流事業を実施した。同事業では、福島県内の視察を通じ、東日本大震災そして原子力災害からの復興の取組や、福島県の多様な魅力の数々について理解を深めた。

さらに県内大学生との意見交換（グループディスカッション）などにより、若い世代同士での相互理解と友情を育んだ。

② 日程及び視察先等

○ 8 月 7 日（月）

- ・産業技術総合研究所 福島再生可能エネルギー研究所
- ・野口英世記念館

○ 8 月 8 日（火）

- ・福島県環境創造センター コミュタン福島
- ・アクアマリンふくしま
- ・スパリゾートハワイアンズ ポリネシアンショー

※ハワイアンズでは、島サミットについての講話やグループワークも行われた。

○ 8 月 9 日（水）

- ・創作かまぼこ「かねまん本舗」
- ・いわき市地域防災交流センター



産業技術総合研究所 福島再生可能エネルギー研究所で、同施設の説明に聞き入る参加者たち。



野口英世記念館の視察。



福島県環境創造センター
コミュタン福島の視察。



スパリゾートハワイアンズでの
記念撮影。



グループワークの様子。

③ 参加者

○太平洋島嶼国留学生 19 名

- ・出身国 : フィジー、マーシャル諸島、パプアニューギニア、サモア、ソロモン諸島、トンガ、キリバス、クック諸島、ニウエ
- ・在籍大学 : 東北大学、福島大学、大分大学、北海道大学、名古屋大学、国際大学、和歌山大学、国際基督教大学、鹿児島大学、熊本大学、琉球大学、帯広畜産大学、早稲田大学、関西医科大学、鳴門教育大学、立命館アジア太平洋大学、名古屋商科大学

○福島県内大学生 17 名

- ・在籍大学 : 福島県立医科大学、奥羽大学、福島大学、日本大学、会津大学、会津大学短期大学部、東日本国際大学、いわき明星大学、獨協大学

2. 各種イベントでのPR

○2-1 いわき大物産展でのPR

- ① 概要等 小名浜港アクアマリンパークで行われた当該イベントにおいて、専用PRブースを設け、ブース来場者に対し、クイズやビンゴなどを通じ、サミットや参加国について理解を深めてもらうことで、サミットの本市開催の意義を広く周知した。
- ② 日 時 平成29年9月30日(土)～10月1日(日)
10時～16時(両日)
- ③ 場 所 小名浜港アクアマリンパーク特設会場
- ④ 内 容 参加国のパネルの掲示、ノベルティグッズの配布、
各種アトラクション
(○×クイズ、歓迎旗づくり、国旗のぬり絵、射的)



サミットブースの様子



○×クイズコーナー



国旗のぬり絵コーナー



歓迎旗づくりコーナー

○2-2 第16回いわき地球市民フェスティバルでのPR

- ① 概要等 いわき産業創造館において行われた当該イベントにおいて、参加国パネルの掲示やノベルティグッズの配布を通し、来場者の参加国についての理解促進に努めた。
- ② 日 時 平成29年10月1日（日）11時～15時
- ③ 場 所 いわき産業創造館 展示企画ホール
- ④ 内 容 参加国のパネル掲示、ノベルティグッズの配布ほか



○2-3 男女共同参画の日イベントでのPR

- ① 概要等 いわき市総合保健福祉センターで行われた当該イベントにおいて、歓迎旗づくりや国旗のぬり絵のコーナーを設け、来場者に参加国をより身近に感じてもらうよう努めた。
- ② 日 時 平成29年11月12日（日）13時～15時
- ③ 場 所 いわき市総合保健福祉センター
- ④ 内 容 歓迎旗づくり、国旗のぬり絵、ノベルティグッズの配布



3. 歓迎横断幕の制作

- ① 概要等 各国首脳夫妻到着時や地元プログラム開催時の歓迎演出に使用するため、また、子どもたちの国際理解とおもてなし意識の涵養を図るため、市内小・中学生によるオリジナルの歓迎横断幕を制作した。
- ② 募集方法 市内の小・中学校への募集を図るとともに、前回サミット（PALM 7）時の制作校等に直接依頼した。
- ③ 募集期間 平成 29 年 11 月 27 日（月）～12 月 20 日（水）
- ④ 制作期間 平成 30 年 1 月 9 日（火）～3 月 23 日（金）
- ⑤ 制作校 計 17 校（小学校：8 校 中学校：9 校）

No.	学校名	担当国	備考
1	藤間中学校	キリバス共和国	PALM 7 でも制作
2	いわき秀英中学校	ニュージーランド	
3	小白井小学校	パラオ共和国	
4	磐城緑蔭中学校	オーストラリア	
5	中央台南中学校	ツバル	
6	植田中学校	フィジー共和国	PALM 7 でも制作
7	平第三中学校	パプアニューギニア独立国	PALM 7 でも制作
8	上遠野中学校	クック諸島	
9	磐崎中学校	サモア独立国	PALM 7 でも制作
10	赤井小学校	ナウル	
11	大野第一小学校	バヌアツ共和国	PALM 7 でも制作
12	湯本第三小学校	ニウエ	PALM 7 でも制作
13	磐崎小学校	ソロモン諸島	PALM 7 でも制作
14	小名浜第一小学校	ミクロネシア連邦	PALM 7 でも制作
15	藤原小学校	トンガ王国	PALM 7 でも制作
16	湯本第一小学校	マーシャル諸島共和国	
17	江名中学校	全体を歓迎する横断幕	PALM 7 でも制作



江名中学校
(全体を歓迎する横断幕)



藤間中学校 (キリバス)



いわき秀英中学校 (ニュージーランド)



小白井小学校 (パラオ)



磐城緑蔭中学校 (オーストラリア)



中央台南中学校 (ツバル)



植田中学校 (フィジー)



平第三中学校 (パプアニューギニア)



上遠野中学校 (クック諸島)



磐崎中学校 (サモア)



赤井小学校 (ナウル)



大野第一小学校 (バヌアツ)



湯本第三小学校 (ニウエ)



磐崎小学校 (ソロモン諸島)



小名浜第一小学校 (ミクロネシア)



藤原小学校 (トンガ)



湯本第一小学校 (マーシャル諸島)

4. 第8回太平洋・島サミット高校生応援隊

- ① 概要等 サミットを契機に次代を担ういわきの子どもたちが国際理解を深めることにより、国際色豊かな人材の育成を図るとともに、いわきの魅力を若い世代の手で全世界に発信するため、本応援隊を結成し、サミット開催のPRや各国首脳のおもてなしに活躍した。
- ② 任命式 日 時：平成30年1月20日（土）10時～10時30分
場 所：いわき市文化センター2階 中会議室
備 考：任命式後、オリエンテーションを実施した。
- ③ 隊員数 33名（市内11の高校から男子6名、女子27名。）
※募集人員は25名だったが、応募した高校生の熱意に応えるため、応募者全員を任命した。
- ④ 活動内容 任命式以降、サミット本番まで計15回の定例ミーティングを重ね、マスコミ出演や各種イベントでのPR、プレイベントの企画実施、サミット当日の歓迎行事などを行った。

【学校別内訳】

No.	学校名	人数
1	磐城高校	1名
2	磐城桜が丘高校	4名
3	平工業高校	1名
4	いわき総合高校	1名
5	いわき光洋高校	9名
6	湯本高校	2名
7	磐城緑蔭高校	3名
8	いわき海星高校	2名
9	昌平高校	1名
10	いわき秀英高校	5名
11	福島高専	4名
計		33名



平成30年1月20日（日）

高校生応援隊任命式

市長から任命状を受け取る際、隊員1人ひとりが意気込みや抱負を発表した。

※学年別・性別内訳〔学年は任命時〕

1年：25名（男子6名、女子19名）

2年：8名（男子0名、女子8名）



平成30年1月20日（日）
オリエンテーション

任命式後に同会場で行われた
オリエンテーションの様子。



定例ミーティング（毎週火曜日）
（計15回：平成30年1月～5月）

サミットのPRはもとより、開催
地としての機運醸成策等につい
て、3班に分かれて議論を重ね、
様々な取組を行った。



定例ミーティングでのステー
ジイベント班の様子。

プレイベントでのステージで
の中身について、ブレインスト
ーミングを行い、各アイディア
を模造紙にまとめた。



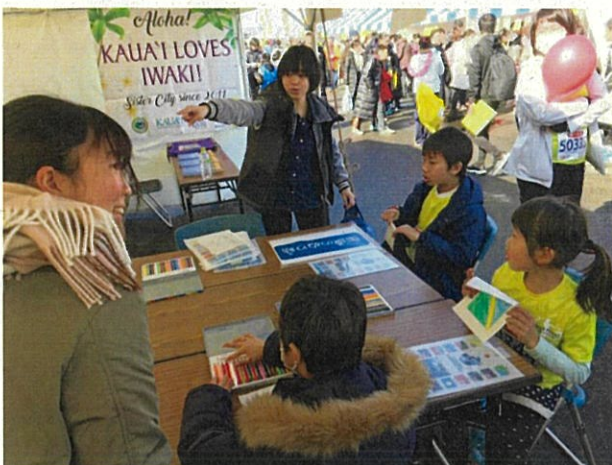
FM局でのラジオ出演
（〔番組名〕とびベティのヨー
ソローアタック）（毎週火曜日）

普段、経験できないラジオ出
演においても堂々と発言し、
サミットのPRに努めた。



平成 30 年 2 月 11 日（日）
第 9 回いわきサンシャインマ
ラソンでの P R

専用ブースを設け、サミット
の P R に努めた。



専用ブース内の国旗のぬり絵
コーナー。



平成 30 年 3 月 1 日（木）
〔番組名〕ゴジてれ chu
（福島中央テレビ）

同番組内の「勝手に笑顔グラ
ンプリ」というコーナーで、
3 月 4 日に行うサミットのプ
レイベントの告知を行った。



生放送で緊張しながらも、
応援隊自らがプレイベントの
P R を行った。



平成 30 年 3 月 4 日 (日)

プレイベント

『ドキドキ 島々「舞島祭」 in いわき』

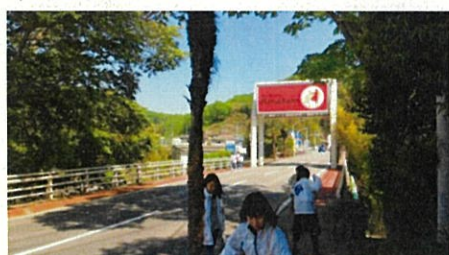
高校生応援隊が一部、司会進行も行った。



ステージ上では、島国に因んだ〇×クイズも行われた。



応援隊のサミット PR ブースの前で、アトラクションに参加した子供たちに配るバルーンアートづくりに励む高校生応援隊。



平成 30 年 4 月 28 日 (土)
サミット会場周辺清掃等

サミットを直前に控え、会場周辺の清掃やのぼり旗設置など、受入環境の整備を行った。



サミット当日に向けた準備

写真アート制作に取り組む高校生応援隊。

完成した写真アートは、スパリゾートハワイアンズ内に設置した。



サミット直前の定例ミーティングでは、一連の歓迎行事に使用する手旗を準備した。



市内の新聞社を周り、サミット開催のPRを行う高校生応援隊。



サミット開催を3日後に控え、万全の体制でサミットに臨む高校生応援隊。



平成 30 年 5 月 18 日（金）
サミット当日の活動 1

湯本駅前で、各国首脳等の到着を待つ高校生応援隊。



ワンダーファームで、安倍総理大臣夫人にインタビューする高校生応援隊。



平成 30 年 5 月 19 日（土）
サミット当日の活動 2

アクアマリン前で、各国首脳等夫人を歓迎する高校生応援隊。



湯本駅で、安倍総理のお見送り前に、総理を囲んで記念撮影する高校生応援隊。



**平成 30 年 7 月 8 日（日）
高校生応援隊解散式**

緑川伸幸 いわき市特定政策推進監
より、これまでの様々な協力に対す
る労いと感謝の意が伝えられ、隊員
1 人ひとりに解任状が交付された。



緑川推進監より、隊員 1 人ひとりに
解任状が交付された。



解散式での記念撮影。



高校生応援隊慰労会

解散式終了後、別会場で、慰労会
を実施した。

5. 第9回いわきサンシャインマラソンでのPR

- ① 概要等 会場内に専用ブースを設置し、高校生応援隊が主体となり、サミットPRのため、ブース来場者にPRグッズを配布したほか、○×クイズや歓迎旗づくりなどのアトラクションを通して、サミットや参加国について理解を深めた。また、地元ラジオ局での生中継インタビューを通して、同応援隊の活動内容やサミットのPRを行った。
- ② 日 時 平成30年2月11日(日) 9時～15時
- ③ 場 所 小名浜アクアマリンパーク特設会場



サミットブースの様子



国旗のぬり絵コーナー



歓迎旗づくりコーナー



サミットの概要説明をする応援隊



ラジオ生中継でサミットをPR

6. プレイベント『ドキドキ島々^{しましま}「舞島祭」^{ぶとうさい} in いわき』の開催

- ① 概要等 サミット開催 75 日前を記念し、カウントダウンボードの挿入を行うとともに、参加国の舞踏をはじめとしたステージショーやサミット参加国大使館ブースのほか、高校生応援隊が主体となってサミットについて様々なPRを行った。
当日は天候にも恵まれ、多くの来場者で賑わった。
(来場者数：約 6,000 人)
- ② 日 時 平成 30 年 3 月 4 日 (日) 10 時～16 時
- ③ 場 所 いわきグリーンベース (21 世紀の森公園内)
- ④ 主 催 第 8 回太平洋・島サミットいわき実行委員会
第 8 回太平洋・島サミット高校生応援隊
- ⑤ 協 力 福島県
- ⑥ 来 賓 駐日トンガ王国特命全権大使
駐日パラオ共和国特命全権大使
駐日サモア独立国特命全権大使
駐日ミクロネシア連邦公使
在福島サモア独立国名誉領事
- ⑦ 広 報 新聞折込チラシ (市内全紙)：約 110,000 部
市内教育機関等への送付 (幼保・小・中・高校)：55,000 部
各報道機関への投込
広報いわき 2 月号への掲載
市公式ホームページ
市公式 Facebook
市公式 twitter
高校生応援隊 twitter ほか



開会式でのカウントダウンボード挿入。



トンガ舞踏



フィジー舞踏



サモア舞踏



各国の情報パネル



サミットをPRする高校生応援隊



ミクロネシア連邦大使館ブース



応援隊制作の顔はめパネル



ゆるキャラ等と子供たちのふれあい

●プレイベントのチラシ（表面）

雨天 決行

「第8回太平洋・島サミット」プレイベント

しましま ぶとうさい

3/4日
10:00~16:00

ドキドキ島々「舞島祭」inいわき

会場 いわきグリーンベース (21世紀の森公園内)

ステージイベント 盛りだくさん!

サモアやフィジーなど島国の伝統の舞踏は必見!
その他、いわきの高校生や団体のパフォーマンスなど...
圧倒されるステージプログラム!
お見逃しなく★



詳しくは
裏面を
チェック!

「サミットプレイベント」ってなあに?

5月18日・19日にいわき市で行われる「第8回太平洋・島サミット」を
たくさんの方に知っていただくためにいわき市内の高校生で結成
された「高校生応援隊」を中心に開催するイベントです。

キッズコーナー

- ふわふわ
- 巨大空気砲

フラキビタン
フラおじさん
(GOCのネエさんも
やって来る!)



クイズに
正解すると
素敵な景品を
プレゼント☆

ブースクイズ

高校生応援隊ブースで
クイズに参加!

クイズに正解してスタンプを集めよう!

1

2

3

スタンプが多いほど
プレゼントも豪華に?!

高校生応援隊による サミットPR& ステージクイズ

ステージクイズに参加して!
豪華賞品をGET!
【参加券は10:00~「本部」で配布します】

賞品

国内旅行券や、
舞浜のテーマパークチケット
などなど

先着
200名
限定

主催 第8回太平洋・島サミットいわき実行委員会・第8回太平洋・島サミット高校生応援隊
(事務局:いわき市観光交流課/TEL.0246-22-1113)

協力 福島県

ドキドキ島々「舞島祭」inいわき記念
抽選引換券
先着300名様
限定

●プレイベントのチラシ（裏面）

「第8回太平洋・島サミット」プレイベント **3月4日** 10:00~16:00

ドキドキ島々「舞島祭」in いわき

サミットわくわくステージショー

開始時間	内 容
10:00	開会式&カウントダウン
10:20	スパリゾートハワイアンズ ダンシングチーム
10:45	トンガ舞踏
11:05	JICAによるPR
11:10	フィジー舞踏(1回目)
11:35	湯本高校フラダンス部 Welina Mahalo
12:00	サモア舞踏(1回目)
12:20	JICAによるPR
12:25	下神谷子供じゃんがら
12:50	高校生応援隊によるサミットPR&ステージクイズ ステージクイズ ●先着200名(参加券は10:00から本部で配布) ●対象:参加券お持ちの方
13:50	JICAによるPR
13:55	フィジー舞踏(2回目)
14:20	サモア舞踏(2回目)
14:45	みや誠承太鼓
15:05	JICAによるPR
15:10	磐城桜が丘高校応援団・チアリーディング
15:35	福島高専ストリートダンスサークル「FuNCTion」
15:55	閉会式(高校生応援隊による宣言)

サミットの概要と島国のPRコーナー

- 島国の紹介パネル展
- 島国のことばレッスン
- 島国の特産品等ブースなど

JICAブース

- サミットスペシャル缶バッジの作成
- 各国の民族衣装の試着
- 民芸品の展示
- 生活や文化に関するクイズなど

その他

- 英会話ブース
- 環境ブース
- ラグビー体験コーナー
- ニュースポーツ体験コーナーなど

わくわく! スイーツコーナー

いわき市内のスイーツ店が集合! あま〜い香りと各店自慢のスイーツで、心から満たされて!!



※写真はイメージです。

まんぷく! 食のコーナー

様々なジャンルのフードメニューが勢揃い! 子どもも大人もお腹いっぱい!

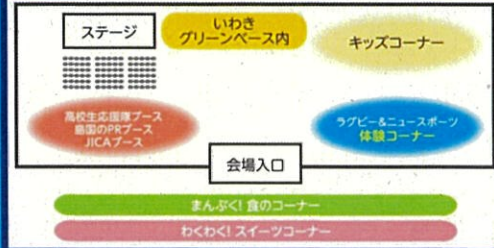


※写真はイメージです。

みんなであそぶ!

第8回太平洋・島サミットは今年5月18日・19日にいわき市で開催されるよ。また、11月には第10回世界水泳選手権も本市で行われるよ。







福島県地域創生総合支援事業(サポート事業)補助事業

7. 第8回太平洋・島サミット応援給食の提供

- ① 概要等 サミット参加国の風土や食文化等の関心を高めるため、「島サミット応援給食」と題し、太平洋の島国で食べられている食材を使った献立を市内の小・中学校で提供した。この応援給食を通じて、市内の小中学生はもとより、保護者、学校関係者等にも広くサミット開催をPRした。
- ② 期 間 平成30年5月15日（火）～18日（金）
- ③ 対 象 市内公立小・中学校（計105校）の児童生徒（約25,000人）
- ④ メニュー
 - ・タロイモカレーライス
（太平洋の島々で主食として食べられているタロイモと、アレルギーを考慮した米粉のカレールウの組み合わせ）
 - ・エリンギのソテー（いわき市産のエリンギを使用）
 - ・牛乳
 - ・冷凍パイナップル（オリジナルシール付き）
（島国ならではの食材と、いわきの食材を組み合わせた。）



5月15日（火）平第一小学校での応援給食会の様子。
市長が同校児童と一緒に給食を食べた。

8. その他各種広報

その他、様々な媒体を駆使して、開催地としての機運醸成に努めた。

① カウントダウンボード（残歴盤）の設置

プレイベント（3/4）でお披露目したカウントダウンボードを、同日中にいわき市役所前に移し、サミット終了まで設置した。



カウントダウンボードの前で写真を撮る高校生応援隊

② のぼり旗



いわき市役所 入口



いわき中央IC入口付近

[設置場所]

- ・市関連施設（市役所1階入口、各支所、藤原公民館）
- ・NEXCO 東日本関係（いわき中央IC、湯本IC、四倉IC、勿来IC）
- ・JR 東日本関係（いわき駅、湯本駅、泉駅）
- ・その他関連施設（スパリゾートハワイアンズ、ワンダーファーム、アクアマリンふくしま、いわき・ら・ら・ミュウほか）

③ 看板・横断幕等



J R 湯本駅前



J R 湯本駅構内



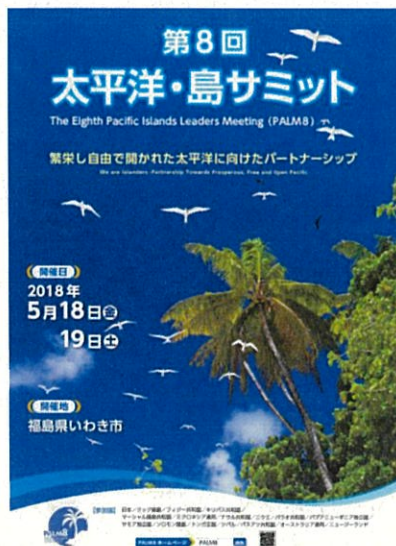
J R 泉駅



いわき市役所 多目的大型表示盤

④ 外務省作成ポスター・パンフレット

平成 30 年 4 月上旬、外務省からポスター（250 部）及びパンフレット（1,000 部）を受領し、市内の関係施設に配布した。



ポスター



外務省
パンフレット

市関連施設（支所、公民館、図書館など）
教育機関（小学校、中学校、高校、大学）
JR 東日本関係（いわき駅、湯本駅、泉駅）
その他関連施設（スパリゾートハワイアンズ、ワンダーファーム、
アクアマリンふくしま、いわき・ら・ら・ミュウほか）

【平成 30 年 2 月号】



広報 いわき

いわき

笑顔で歓迎
ようこそいわきへ！

7
FEBRUARY 2018
No.624

Welcom
Ueda
hikari

特別集
近頃寂しくなくて
住みよいまちへ〜 2・3



⑥ ノベルティグッズ

次のノベルティグッズを作成し、市内の様々なイベント等で配布した。



ウェットティッシュ



シャープペンシル



クリアファイル

⑦ レシート広告



市内の商業施設（イトーヨーカ堂、ヨークベニマル、マルト）の協力のもと、レシートにサミット開催の旨を掲載した。

[掲載期間]

平成 30 年 4 月中旬～ 5 月 19 日

⑧ インターネット関係



市公式ホームページ



市公式 Facebook



太平洋・島サミット高校生応援隊

@PALM8_ouentai

福島県いわき市で2018年5月18日（金）19日（土）に開催される「第8回 太平洋・島サミット（PALM8）」の魅力を、市内の高校生の視点からPRしていく「第8回太平洋・島サミット高校生応援隊」のアカウントです。応援よろしくお願いします。

📍 福島 いわき市

📅 2018年1月からTwitterを利用しています

487 フォロー中 246 フォロワー

ツイート ツイートと返信 メディア いいね

16:48 ツイート



太平洋・島サミット高校生応援隊
@PALM8_ouentai

今日は広報記録班5人でいわき民報さん、福島民報さん、福島民友さんの3社を訪問し、太平洋・島サミットのPRをしてきました。やさしい記者さんばかりで緊張せずに受け答えができました。ありがとうございました！ #島サミット #PALM8 #いわき市



高校生応援隊 Twitter
サミットや太平洋の島
国の情報を頻繁に発信
した。

⑨ 笑顔の写真アート

高校生応援隊が、様々な市内でのイベント等に出向いて、人々の笑顔の写真を多数集め、写真アートパネルを制作した。サミット当日、各国首脳の目に留まるよう、メイン会場であるスパリゾートハワイアンズ内に設置した。



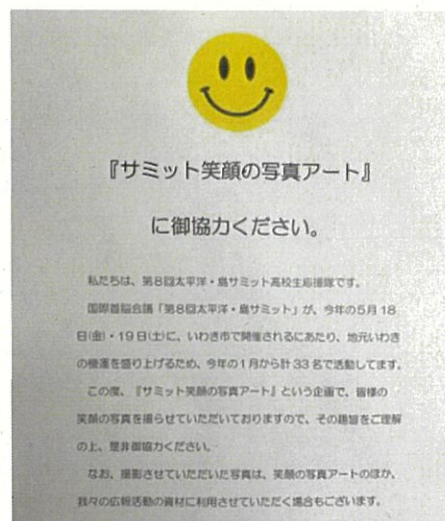
制作作業に取り組む高校生応援隊



写真アートパネル（完成品）



スパリゾートハワイアンズ内に
パネルを設置した。



撮影協力依頼時の配布用紙

⑩ 第8回太平洋・島サミットつうしん

高校生応援隊が自ら編集・発行した「第8回太平洋・島サミットつうしん」を関係機関に配布した。

小・中学生が制作 太平洋・島サミット歓迎横断幕が完成!

市内の小・中学生が制作した「第8回太平洋・島サミット歓迎横断幕」が、各参加団体の代表者から受け渡されました。市内の小・中学生は、この横断幕を、サミット開催期間中に、市内の主要な通りなどに掲示し、サミットの開催を歓迎する予定です。

市内の小・中学生が制作した「第8回太平洋・島サミット歓迎横断幕」が、各参加団体の代表者から受け渡されました。市内の小・中学生は、この横断幕を、サミット開催期間中に、市内の主要な通りなどに掲示し、サミットの開催を歓迎する予定です。

太平洋・島サミットつうしん vol.1

第8回

2018年5月発行

第8回太平洋・島サミットとは?

第8回太平洋・島サミットは、2018年10月19日(土)に、小笠原町立小笠原総合体育館で開催されます。このサミットは、太平洋の島国と日本との友好関係を深め、国際社会での役割を高めることを目的としています。サミットには、太平洋の島国の代表者、日本政府の代表者、そして市民の代表者が参加します。サミットのテーマは「持続可能な開発目標(SDGs)の実現に向けた取り組み」です。

島国の言葉であいさつしよう!

外国の人と話すときは、相手の言葉を知ることが大切です。島国の言葉を知ることが、国際社会でのコミュニケーションをスムーズにします。サミットでは、島国の言葉の勉強会が開催されます。参加者は、島国の言葉の勉強会に参加し、島国の言葉の勉強をすることができます。

大人の顔ぶれも!

サミットには、多くの大人が参加します。大人たちは、サミットの開催をサポートし、サミットの成功に貢献します。大人たちは、サミットの開催をサポートし、サミットの成功に貢献します。

第8回太平洋・島サミット 高校生応援隊について

太平洋・島サミット高校生応援隊は、高校生がサミットの開催をサポートし、サミットの成功に貢献するための組織です。高校生応援隊は、サミットの開催をサポートし、サミットの成功に貢献するための組織です。

第8回太平洋・島サミット プレイベント

ドキドキ島々舞島祭 いわき、開催しました!

ステージイベント班

ステージイベント班は、ステージイベントの企画・実行を担当する班です。ステージイベント班は、ステージイベントの企画・実行を担当する班です。

島国の物産&PR班

島国の物産&PR班は、島国の物産のPRを担当する班です。島国の物産&PR班は、島国の物産のPRを担当する班です。

⑪ サミット写真パネル展

- ・概要等 サミット開催の成果をPRするため、サミット当日の写真パネルを市役所本庁舎のロビーに展示した。また、市役所のほか、平成30年10月27日(土)に開催された第17回いわき地球市民フェスティバルの会場内においても、同パネルを展示した。



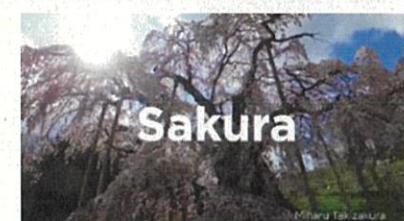
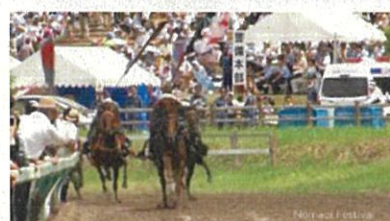
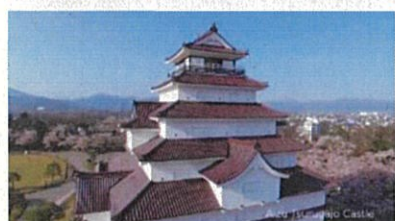
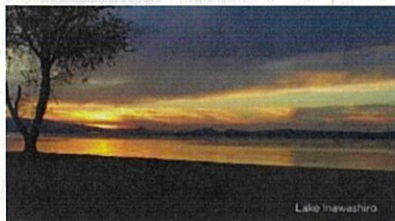
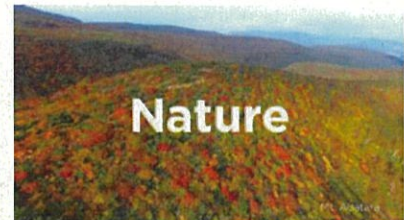
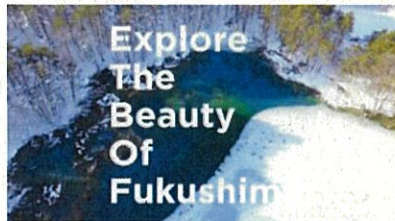
市役所本庁舎 1階ロビーでのパネル展示
〔平成30年10月1日(月)～10月12日(金)〕



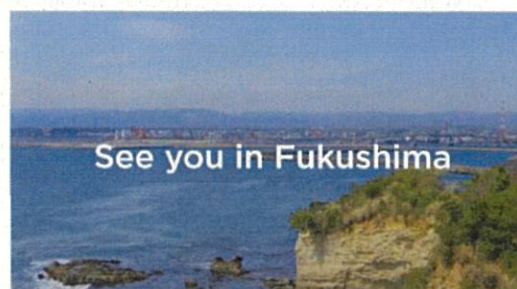
第17回いわき地球市民フェスティバルでのパネル展示
〔平成30年10月27日(土)〕

⑫ PR 動画の作成

P R 動画「Explore The Beauty Of Fukushima」を作成し、Youtube で公開した。



また、以下の島サミット時の映像を追加で盛り込んだ事後バージョンも作成した。



VI. 開催までの取組

1. 福島県の実施体制

① 人員体制

国際課においては、生活環境総務課より平成 30 年 4 月から 1 名応援があり、本番まで 1 名増員で準備業務を行った。

また、サミット当日の昼食会においては、国際課 11 名、国際交流協会 3 名の他、生活環境部といわき地方振興局から 38 名、プレス対応として広報課から 4 名、救護対応として相双保健福祉事務所から保健師が 2 名の総勢 58 名で対応した。

② 執務室の設置

当日の現地対応のため、5 月 18 日（金）にスパリゾート・ハワイアンズの「桔梗の間」を県の執務室及び控室として確保した。なお、執務室は外務省による規制区域内であったため、執務室の使用が想定される職員について、あらかじめ外務省から ID を取得した。

2. いわき市の実施体制

① 第 8 回太平洋・島サミットいわき実行委員会と企画部会の設置

平成 29 年 5 月 22 日、市内 36 の教育機関、経済・産業・地域団体、報道機関の参画をいただき、サミット当日に実施される地元プログラムや機運醸成の取組等を検討するため、実行委員会を設置した。併せて、具体的な地元プログラムの提案内容や機運醸成等について調査検討するため、同委員会の下部組織として企画部会を設置した。それぞれの開催経過は次のとおり。

●第 8 回太平洋・島サミットいわき実行委員会

・第 1 回委員会

開催日：平成 29 年 5 月 22 日（月）

場 所：いわき市文化センター 大講義室

内 容：実行委員会規約の承認、役員選出
平成 29 年度事業計画について
平成 29 年度予算について



・第 2 回委員会

開催日：平成 29 年 11 月 30 日（木）

場 所：いわき市文化センター 中会議室

内 容：地元プログラムの提案について
今後の機運醸成の取組について



・第3回委員会

開催日：平成30年3月28日（水）

場 所：いわき市役所 第8会議室

内 容：いわき市からの記念品について
平成29年度決算について
平成30年度事業計画について ほか



・第4回委員会

開催日：平成30年5月10日（木）

場 所：いわき市文化センター 大講義室

内 容：地元プログラム等について
当日の歓迎行事について



・第5回委員会

開催日：平成30年12月17日（月）

場 所：いわき市役所 第8会議室

内 容：実施報告書について
平成30年度決算について



●第8回太平洋・島サミットいわき実行委員会 企画部会

・第1回部会

開催日：平成29年6月28日（水）

場 所：いわき市役所 第8会議室

内 容：部会の役割及び今後の進め方の確認
座長の選任ほか



・第2回部会

開催日：平成29年7月26日（水）

場 所：いわき市役所議会棟 第2委員会室

内 容：地元プログラム等について



・第3回部会

開催日：平成29年8月30日（水）

場 所：いわき市役所議会棟 第2委員会室

内 容：外部講師を招いての講演及び意見交換



・第4回部会

開催日：平成 29 年 10 月 3 日（火）

場 所：いわき市役所 第3会議室

内 容：地元プログラム案のとりまとめ



・第5回部会

開催日：平成 30 年 2 月 15 日（木）

場 所：いわき市役所 第8会議室

内 容：いわき市からの記念品について
PR グッズ等について



・第6回部会

開催日：平成 30 年 5 月 7 日（月）

場 所：いわき市役所 第3会議室

内 容：地元プログラム等について
当日の歓迎行事について



② 第8回太平洋・島サミット地元プログラム提案書の提出

第2回実行委員会（平成 29 年 11 月 30 日）での承認を経て、次のとおり、「第8回太平洋・島サミット地元プログラム提案書」を外務省に提出した。

・日 時 平成 29 年 12 月 19 日（火） 11 時

・場 所 外務省本省内 応接室

・相手方 山口大治 外務省アジア大洋州局大洋州課長

・提出者 緑川伸幸 いわき市特定政策推進監



外務省大洋州課 山口課長
（写真右）

③ 第8回太平洋・島サミット関係課長会議の開催

庁内の連絡協力体制を確保し、サミット開催支援体制などを共有するため、関係課長会議を開催した。

・ 第1回会議

開催日：平成30年2月16日（金）

場 所：いわき市役所 第3会議室

内 容：いわき市の役割等について



・ 第2回会議

開催日：平成30年4月19日（木）

場 所：いわき市役所議会棟 第6委員会室

内 容：運営サポート等について



3. 報道機関対応

各場面における取材要領の作成及び当日の対応等については、次のとおり、国、県、市がそれぞれ分担して行った。

(取材対応の分担)

	行事	取材可否	担当
5/18	JR 湯本駅での歓迎行事	可	いわき市
	福島県知事主催歓迎昼食会	可 (冒頭)	福島県
	慰霊行事	可	外務省 いわき市
	スパリゾートハワイアンズでの歓迎	可	いわき市
	ワンダーファーム訪問	可	いわき市
	二国間会談	可 (冒頭代表)	外務省
	総理夫妻主催晩餐会	可 (冒頭・余興)	外務省
	フラガール公演鑑賞	可	外務省
5/19	首脳記念撮影	可	外務省
	首脳会議 (開会セッション)	可	外務省
	首脳会議 (第1～第3セッション)	不可	外務省
	首脳会議 (閉会セッション)	不可	外務省
	共同記者発表	可	外務省
	二国間会談	可 (冒頭代表)	外務省
	【配偶者】海洋シンポジウム	可 (一部)	外務省
	【配偶者】安倍総理夫人主催昼食会	不可	外務省
	ワンダーファーム訪問	可	いわき市

太平洋・島サミット 第3回中間閣僚会合
(結果概要)

平成 29 年 1 月 17 日
外務省アジア大洋州局大洋州課

1. 全般

- (1) 平成 29 年 1 月 17 日、東京の外務省飯倉公館において、岸田大臣とローリン・S・ロバート・ミクロネシア連邦外務大臣の共同議長の下、太平洋・島サミット第3回中間閣僚会合(the 3rd Ministerial Interim Meeting of PALM:MIM3)が開催されました。会合には日本からは小田原政務官も出席し、16 カ国から外務大臣等の首脳及び閣僚級の関係者が参加しました。
- (2) 会合では、第8回太平洋・島サミット(PALM8)に向け、(ア)第7回太平洋・島サミット(PALM7)のフォローアップ、(イ)国際場裡での協力、(ウ)自立的かつ持続的な発展、(エ)海洋に関する諸課題、(オ)PALM8に向けた方向性に焦点を当て、これらについて活発な議論が行われ、「議長総括(仮訳 PDF)/英文(PDF)」を採択しました。
- (3) 岸田大臣から、活発な議論が行われたことについて、参加国に謝意を表明するとともに、今後、PALM8に向けた準備を進めていく上で非常に良い出発点となった旨、引き続き太平洋島嶼国と手を携えて協力していきたい旨述べました。太平洋島嶼国からは、日本がPALM7において行ったコミットメントを着実に実施していることに対する深い謝意の表明がありました。
- (4) 最後に岸田大臣から、PALM8を、2018年5月18日及び19日に福島県いわき市で開催することとした旨発表しました。

2. 各セッションの概要

(1) ワーキングランチ

(ア) PALM7のフォローアップ

岸田大臣から、2015年のPALM7で日本が約束した、3年間で550億円以上の援助及び約4,000人の人材育成・人的交流に関し、約1年半の間に、約610億円の支援及び3,200人以上の人材育成・人的交流を実施し、PALM8までに目標を達成する見込みであることを紹介し、実施状況の詳細について小田原大臣政務官が説明を行いました。太平洋島嶼国からは、PALM7の着実なフォローアップに対する高い評価と謝意が表明されました。また、岸田大臣は、日本は、太平洋島嶼国の自立的かつ持続的な発展に向け、引き続き支援を行っていく旨表明しました。

(イ) 国際場裡における協力

岸田大臣から、地域情勢や、国連安保理改革、軍縮・不拡散を含む国際場裡において協力し、太平洋島嶼国と一層緊密に連携していきたい旨述べ、太平洋島嶼国からは、日本の立場に関する理解・協力が示されました。また、岸田大臣からは、太平洋島嶼国が国際社会においてイニシアティブを発揮していることに対する歓迎の意を表明するとともに、日本としてできる限りの支援や協力を行っていく旨表明しました。

(2) 第1セッション： 自立的かつ持続的な発展に向けた取組

(ア) 環境関連課題対策

岸田大臣から、気候変動問題について、すべての太平洋島嶼国がパリ協定を署名・締結し、フィジーが次回 COP23 の議長を務める等、各国の積極的な姿勢を評価しました。また、防災や廃棄物処理についても、引き続き支援を行っていく旨述べました。これに対し、太平洋島嶼国側から、日本の貢献を評価する発言があるとともに、引き続いての理解と更なる支援への期待が示されました。

(イ) 貿易・投資・ビジネス発展

岸田大臣から、太平洋島嶼国が自立的に発展することができるよう、貿易や投資の促進やビジネス発展を通じて協力していく旨改めて確認しました。その上で、日本と太平洋島嶼国の間の情報交換やビジネス・マッチング等の交流を一層促進していく旨述べました。これに対し、太平洋島嶼国からは、日本との経済関係強化の要望が寄せられました。

(3) 第2セッション(1)： 自由で開かれた海洋秩序

(ア) 法に基づく海洋秩序

岸田大臣から、地域の平和、安定及び繁栄の礎となる太平洋を確保するためには、法に基づく自由で開かれた海洋秩序の確保が重要である旨指摘するとともに、紛争は国際法に基づき平和的に解決されなければならないとの日本の基本的立場を述べ、太平洋島嶼国との間で認識を共有し、海における法の支配の3原則についても太平洋島嶼国との間でその趣旨について一致しました。

(イ) 海洋資源の持続可能な利用

岸田大臣から、これまでの漁業分野における各国の協力に対する謝意を表明するとともに、持続可能な漁業管理及び海洋環境保全等の分野において、共に取り組みたい旨述べました。太平洋島嶼国からは、重要な自然資源である海洋資源の持続可能な利用に向けて日本と協力していきたい旨反応がありました。

(4) 第2セッション(2) : PALM8に向けたビジョン

岸田大臣から、喫緊の共通課題に、より効果的に取り組むため、PALMプロセスを強化していきたい旨述べるとともに、PALM8の成功に向けて緊密に協力していきたい旨述べ、これに対し、PALM8の共同議長となるサモアのトゥイラエパ首相を始め、太平洋島嶼国からも賛意が示されました。

最後に、岸田大臣から、PALM8を2018年5月18日及び19日に福島県いわき市で開催するとした旨発表しました。

※参加国

ミクロネシア：ローリン・S・ロバート外務大臣

ナウル：バロン・ディバベシ・ワンガ大統領兼外務・貿易大臣

サモア：トゥイラエパ・ファティアロファ・ルペソリアイ・サイレレ・マリエレガオイ首相兼外務貿易大臣

クック：ヘンリー・プナ首相

ニウエ：ポコトア・ラロトア・シペリ・社会福祉・法務・国土測量・ニウエ語保存・教育・保険大臣

マーシャル諸島共和国：ジョン・M・シルク外務大臣

パプアニューギニア：リムピンク・パト外務移民大臣

ソロモン：ミルナー・トザカ外務・貿易大臣

バヌアツ：ブルーノ・レンゴン外務・国際協力・貿易大臣

フィジー：チョネ・ウサマデ雇用・生産性・産業関係大臣

パラオ：カスミル・レメンゲサウ特使

ツバル：マッケンジー・キリトメ議会議員兼政府貿易・観光特使

トンガ：タニア・ラウマヌルペ・タラフォリカ・ツポウ駐日大使

キリバス：テーコア・イウタ・駐日大使

オーストラリア：ダニエル・スローパー外務貿易省第一次官補

ニュージーランド：スティーブン・ペイトン駐日大使

PIF：アンディ・フォン・トイ事務局次長

(了)

「第8回太平洋・島サミット歓迎横断幕」募集要項

1 目的等

国際首脳会議「第8回太平洋・島サミット」が、平成30年5月18日、19日の両日、前回到引き続き、本市で開催されることを受け、この記念すべき機会に子ども達の国際理解とおもてなし意識の涵養を図るため、サミット参加国(16ヶ国)を歓迎するメッセージやイラストを入れた横断幕の制作にご協力いただける学校を募集する。

なお、横断幕は、イベントやサミット当日のお出迎えなどに活用する。

参加国：ミクロネシア連邦、パラオ、ナウル、マーシャル諸島、キリバス、パプアニューギニア、ソロモン諸島、バヌアツ、フィジー、サモア、トンガ、ツバル、クック諸島、ニウエ、オーストラリア、ニュージーランド

2 対象

市内の小・中学校

3 応募方法

応募用紙に必要事項を記入のうえ、観光交流課へ提出する。
(持参または、郵送、FAX、E-mail)

4 応募期間及び制作期間

- ・ 応募期間 平成29年11月27日(月)～平成29年12月20日(水)
- ・ 制作期間 平成30年 1月 9日(火)～平成30年 3月23日(金)

5 内容

横断幕(H=120cm、W=400cm)に、歓迎の気持ちを表すイラスト、学校名、「PALM8」(※)の表記を入れる。文字の字体や色は自由とする。

※PALM8(The 8th Pacific Islands Leaders Meetingの略)

【制作例】



6 市からの支給物

白地の横断幕(H=120cm、W=400cm)、絵の具、マジック等

7 記念品

協力いただいた児童・生徒に、サミット記念グッズを提供する。

「第8回太平洋・島サミット高校生応援隊」募集要項

1 目的

国際首脳会議「第8回太平洋・島サミット」が、平成30年5月18日、19日の両日、前回に引き続き、本市で開催されることから、サミットを契機に次代を担ういわきの子どもたちが国際理解を深めることにより、グローバルな視野を持った人材の育成を図るとともに、いわきの魅力を若い世代の手で全世界に発信するため、「(仮称) 第8回太平洋・島サミット高校生応援隊」の隊員を募集する。

2 太平洋・島サミットの概要

太平洋・島サミットとは、親日的で国際社会において日本を支持してくれる重要なパートナーである太平洋の島国との関係強化と同地域の発展に共に取り組むため、3年に一度、日本に太平洋の島国の首脳を招き、防災・環境・開発などの課題について話し合う国際会議で、平成9年の第1回開催から数えて、平成30年の本市開催で8回目となる。

(参加国：ミクロネシア連邦、パラオ、ナウル、マーシャル諸島、キリバス、パプアニューギニア、ソロモン諸島、バヌアツ、フィジー、サモア、トンガ、ツバル、クック諸島、ニウエ、オーストラリア、ニュージーランド、日本)

3 募集対象

平成29年12月1日現在、いわき市内の高等学校・高等専門学校、専修学校（高等課程）に在籍する1・2年生の生徒で、且つ、平成30年1月～5月の期間、週1回程度の定例ミーティング（19:00～21:00）に参加できるもの。（場所：市役所またはラトブ予定）

- 4 募集期間 平成29年12月1日（金）から12月15日（金）まで
- 5 募集人員 25名（定員を超える申込があった場合、書類選考/面接等により決定）
- 6 応募方法 申込書類を郵送もしくは直接持参 ※郵送の場合は当日消印有効。
- 7 申込書類 別紙「第8回太平洋・島サミット高校生応援隊応募用紙」
- 8 申込先／ いわき市観光交流室観光交流課（市役所本庁舎5階）
問い合わせ （〒970-8686 いわき市平字梅本21） 電話：22-1113（直通）
- 9 活動期間 平成30年1月～5月（1月中旬に任命式予定）

10 主な活動内容

- ・第9回いわきサンシャインマラソン（2月11日予定）をはじめとした市内イベントにおけるPRブースの設置及び広報PR
- ・サミット3カ月前イベント（平成30年3月予定）の企画・実施
- ・いわき市民コミュニティ放送（FMいわき）などマスメディアを通じたPR
- ・サミット通信（広報紙媒体）の発行、応援隊による歓迎横断幕の製作
- ・地元プログラムにおけるサポート研修及び実践、そのほかサミット関連活動

第8回太平洋・島サミット (結果概要)

平成30年 5月19日

1 ポイント

(1) 5月18日～19日、福島県いわき市のスパリゾートハワイアンズにおいて、安倍総理とトウイラエパ・サモア首相の共同議長の下、第8回太平洋・島サミット(The Eighth Pacific Islands Leaders Meeting: PALM8)が開催された。PALM8は、「繁栄し自由で開かれた太平洋に向けたパートナーシップ」というキャッチフレーズの下、日本、島嶼14カ国、ニュージーランド、豪州に加え、新規参加のニューカレドニア・仏領ポリネシアの2地域を含む19カ国・地域の首脳等が参加した。

(2) PALM8では、①法の支配に基づく海洋秩序、持続可能な海洋、②強靱かつ持続可能な発展、③人的往来・交流の活性化、④国際場裡における協力の4つの議題を中心に議論を行い、議論の成果として「PALM8首脳宣言」を採択した(骨子(PDF))。

(3) PALM8のポイントは以下の4点。

ア 日本からは、「自由で開かれたインド太平洋戦略」に基づいて、この地域の安定と繁栄により深くコミットしていく考えを表明し、太平洋島嶼国側からは、同戦略の基本的な理念の重要性を共有するとともに、同戦略の下での我が国の太平洋地域への関与強化に歓迎の意が表された。

イ 「自由で開かれたインド太平洋戦略」を踏まえ、自由で開かれた持続可能な海洋をPALM8の最も重要な議題として議論し、海における法の支配の重要性に関する認識を共有するとともに海上法執行を含む海上保安分野の能力構築支援や港湾整備等の分野での協力を推進していくことで一致した。

ウ 国際場裡における協力について、踏み込んだ議論を行い、PALMとしては初めて首脳宣言において北朝鮮問題に関する文言が盛り込まれた。また、日本の国連安保理常任理事国入りへの支持についても表明された。

エ 日本として、これまでの実績を踏まえながら、今後3年間で従来同様のしっかりとした開発協力を実施することを約束するとともに、成長と繁栄の基盤は人作りであるとの考え方に基づき、今後3年間で、5,000人以上の人的育成・交流の協力を行っていくことを表明した。その中で、特に今回の重要な柱の一つである「自由で開かれた持続可能な海洋」のための協力に関しては、今後3年間で500人の人材育成・交流を行っていくことを表明した。

2 各セッションの概要

(1) 開会

安倍総理が、海洋に焦点を当てた日本の対太平洋島嶼国外交に関する基調発言(日本語(PDF)/英語(PDF))を行った。

(2) 第1セッション(PALMプロセス及び日本と太平洋島嶼国のパートナーシップ)

ア 安倍総理から、PALM7で約束したコミットメントは、目標を大幅に超える形で達成した旨説明した上で、今後3年間では、①自由で開かれた持続可能な海洋、②持続可能な発展、③人的交

流・往来の活性化、の3分野を中心に協力を進めていく旨、日本政府として、太平洋島嶼国のニーズにしっかりと耳を傾けながら、島嶼国の人々そして社会が真に裨益する、ソフトとハード両面でのきめ細かな質の高い支援を提供し、これらの分野を中心に今後3年間で5,000人以上の人材育成・交流を実施することを約束する旨表明した。

イ 太平洋島嶼国からは、PALMがこれまで果たしてきた役割を高く評価する旨発言があり、日本と太平洋島嶼国でPALMプロセスを一層強化することで一致した。また、太平洋島嶼国側からは、日本の長年にわたる貢献に対して謝意が表されるとともに今後3年間の新たな協力・支援策に対する力強い支持が表明された。

(3) 第2セッション(法の支配に基づく海洋秩序と海洋資源の持続可能性)

ア 安倍総理から、日本として「自由で開かれたインド太平洋戦略」に基づき太平洋島嶼国地域への関与を強化するとともに、ODAを含む各種協力を積極的に実施していく旨表明し、太平洋島嶼国に対して連携と協力を呼びかけた。これに対し、各国からは、本戦略が掲げる理念への支持や本戦略に基づく日本の地域への積極的かつ建設的な貢献を歓迎する旨の発言が多く表明された。その上で、各国から本戦略の具体化に向けた期待が述べられた。

イ 日本と太平洋島嶼国の間で、太平洋に法の支配の概念を深く根付かせていくことの重要性、また、違法・無報告・無規制漁業対策を含め、漁業資源の適切な管理に共に取り組むことにつき一致した。また、安倍総理からは、日本漁船が地域において安定的に操業できるよう協力を働きかけた。

ウ 安倍総理から、日本として今後特に力を入れていきたい分野として、①人材育成及び機材供与を通じた違法漁業対策や海上法執行を含む海上保安分野の能力向上、②鯨類を含む海洋生物資源の管理、海洋環境の保全、③港湾整備等を通じた海上輸送網の整備による海洋連結性の強化といった海洋に関する課題に対して包括的な取組を進め、また、今後3年間で500人の能力構築措置を行う旨表明し、各国から強い期待が示された。

(4) 第3セッション(強靱かつ持続可能な発展の基盤強化)

ア 安倍総理から、日本にとって強靱かつ持続可能な発展の実現は、優先協力分野である旨説明した上で、持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けた連携を確認するとともに、太平洋島嶼国の存続そのものを脅かす深刻な課題である気候変動に関し、太平洋気候変動センターの整備による行政官の能力構築や再生可能エネルギーの一層の導入、効率的な活用等を通じて支援していく旨表明した。太平洋島嶼国側からは、気候変動対策に関する国際的な連携強化の重要性に関して発言があるとともに、日本によるこの分野における更なる協力に関する強い期待が示された。

イ 安倍総理から、防災に関して、地域を襲った各種自然災害によって被害を受けた人々への連帯を表明した上で、日本として、今後、自然災害に対する太平洋島嶼国の強靱性強化も含め可能な限りの支援を行っていく旨表明した。また、廃棄物削減の取組等を通じた環境問題への対応や保健・教育分野での協力にも言及した。これに対し、太平洋島嶼国からは、日本の長年の支援に対して謝意が表明されるとともに、各国の強靱性を高めるため、今後日本と太平洋島嶼国で緊密に連携していくことで一致した。

ウ 安倍総理から、地域におけるインフラ整備は、主権と平和的利用が尊重され、開放性、透明性、

経済性、被援助国の財政の健全性等の国際スタンダードに沿って進められることが重要である旨述べるとともに、日本として、こうした国際スタンダードに沿った質の高いインフラの整備支援を進めていく旨表明した。これに対し、各国から日本による更なるインフラ整備への要請があった。

(5) ワーキングランチ：議題1（人的交流・往来の活性化）

ア 安倍総理から、査証緩和、太平洋島嶼国と地方自治体の交流、日本と太平洋島嶼国間の航空便の充実、太平洋島嶼国における日本語教育の活性化、人的交流分野での「JENESYS」や、「Pacific-LEADS」を通じた協力等の取組について説明した。

また、安倍総理から遺骨の帰還や慰霊碑の建立・維持に関する太平洋島嶼国の協力に謝意を表するとともに、引き続きの協力を働きかけた。

イ 太平洋島嶼国からは、日本との人的交流・往来強化の動きを活性化することの重要性を指摘する発言があるとともに、直行便の開設、人材育成、更なる査証緩和等を含め、更なる人的交流・往来の活性化に関して強い期待が表明され、日本と太平洋島嶼国でこの分野において引き続き、緊密に協力していくことで一致した。

(6) ワーキングランチ：議題2（国際場裡における協力）

ア 安倍総理から、太平洋島嶼国が主導する取組の成功に向けて日本としても最大限貢献していく旨述べた上で、日本の国連安保理常任理事国入りや各種国際選挙に関する太平洋島嶼国からの一貫した力強い支持に謝意を表した。これに対し、太平洋島嶼国からは、日本の国連安保理常任理事国入りをはじめ、引き続き国際場裡において日本を力強く支持する旨発言があった。また、太平洋島嶼国が主催・主導する各種取組に関し、日本からの支持の要請があった。

イ 北朝鮮情勢について、安倍総理を含む各国首脳は、4月下旬の南北首脳会談において合意され、朝鮮半島の完全な非核化という共通の目標を確認した「朝鮮半島の平和と繁栄、統一のための板門店宣言文」を歓迎し、来る6月の米朝首脳会談を通じ、この目標に向けた、北朝鮮による具体的な行動が示されることに期待を表明した。また、北朝鮮に対して、国連安保理決議に従った具体的な行動を即時に取るよう強く要請し、国連安保理決議を完全に履行し、また執行することを含め、北朝鮮に対して圧力をかけ続けていくことで一致した。特に、いわゆる「瀬取り」を含む北朝鮮による制裁回避戦術に対して深刻な懸念を表明し、現時点で船舶登録上、自国が旗国となっている貿易又は漁業に従事する北朝鮮関連船舶の船舶登録の解除を含め、関連国連安保理決議に従った努力を加速させていくことの必要性を強調した。さらに、生物・化学兵器を含む全ての大量破壊兵器、あらゆる射程の弾道ミサイル及び関連施設の完全な、検証可能な、かつ、不可逆的な方法での廃棄に向けて、平和的かつ外交的な解決を追求することの重要性、並びに拉致問題の即時解決を含め、北朝鮮の人道上の懸念に対処することの重要性を強調した。

(7) 閉会

サモアからは、PALM8の成功における日本をはじめとする各国への謝意が述べられるとともに、日本と太平洋島嶼国のパートナーシップを更に強化していきたい旨述べられた。

安倍総理からは、PALM8の成果を適切にフォローアップし、PALM9に向けた方向性について

議論を行うため、1年半後を目処に第4回中間閣僚会合を開催する旨発言があった。また安倍総理は、中間閣僚会合を太平洋島嶼国で開催する可能性を追求したい旨述べるとともに、首脳レベルでの対話も維持・強化したい旨発言した。最後に安倍総理は、PALM8首脳宣言を基礎に、日本と太平洋島嶼国で新時代のパートナーシップをとともに築き、繁栄し、自由で開かれた太平洋を共に確保していく決意を新たにし、第8回太平洋・島サミットの閉会を宣言した。

(出席者)

サモア独立国: トウイラエパ・ファティアロファ・ルペソリアイ・サイレレ・マリエガオイ首相兼外務貿易大臣

パラオ共和国: トミー・E・レメンゲサウ・Jr. 大統領

ナウル共和国: バロン・ワンガ大統領兼外務・貿易大臣

ミクロネシア連邦: ピーター・マーティン・クリスチャン大統領

マーシャル諸島共和国: ヒルダ・C・ハイネ大統領

キリバス共和国: ターネス・マーマウ大統領兼外務・移民大臣

フィジー共和国: ジョサイア・ヴォレンゲ・バイニマラマ首相兼外務大臣

クック諸島: ヘンリー・プナ首相兼外務・移民大臣

パプアニューギニア独立国: ピーター・オニール首相

ツバル: エネレ・ソセネ・ソポアンガ首相兼公共事業・インフラ大臣

バヌアツ共和国: シャーロット・サルワイ・タビマスマス首相

ソロモン諸島: リック・ハウウェニプウェラ首相

ニューカレドニア: フィリップ・ジェルマン大統領

ニウエ: ポコトア・ラロトア・シペリ首相代行及びインフラ大臣

ニュージーランド: ウィンストン・ピーターズ副首相兼外務大臣

トンガ王国: セミシ・キオア・ラフ・シカ副首相兼社会基盤・観光大臣

オーストラリア連邦: コンチェッタ・フィエラヴァンティ＝ウェルズ国際開発・太平洋大臣

仏領ポリネシア: ヘレモアナ・マーマトウアイアフタブ仏領ポリネシア文化、環境、手工業、エネルギー大臣、言語促進、コミュニケーション担当大臣

太平洋諸島フォーラム (PIF): メグ・テイラー PIF 事務局長

第8回太平洋・島サミット（PALM8）

首脳宣言

福島県・いわき市

2018年5月18日及び19日

概観

1 日本並びに太平洋諸島フォーラム加盟国であるオーストラリア、クック諸島、ミクロネシア連邦、フィジー共和国、仏領ポリネシア、キリバス共和国、マーシャル諸島共和国、ナウル共和国、ニューカレドニア、ニュージーランド、ニウエ、パラオ共和国、パプアニューギニア、サモア、ソロモン諸島、トンガ、ツバル及びバヌアツの首脳及び代表（以下「首脳」という。）は、2018年5月18日及び19日に第8回太平洋・島サミット（PALM8）のため福島県いわき市で会合した。首脳は、PALM8を成功に導いた、共同議長である安倍晋三日本国内閣総理大臣及び現在の太平洋諸島フォーラム議長でもあるトゥイラエパ・サイレレ・マリエレガオイ・サモア首相に謝意を表明した。首脳は、仏領ポリネシア及びニューカレドニアの太平洋諸島フォーラムの完全なメンバーとしてのPALMへの初の参加を歓迎した。

2 首脳は、福島県及びいわき市による温かいもてなしに謝意を表明した。首脳は、2011年の東日本大震災からの福島県及びいわき市の復興の着実な進展を歓迎し、支持した。

3 首脳は、パプアニューギニアにおける壊滅的な地震、バヌアツにおける火山噴火、サモア、トンガ及びフィジーを襲った熱帯サイクロンのジータ、ケニ及びジョジー等の太平洋地域における最近の災害によって被害を受けた全ての人々に心からの弔意と深い哀悼の意を表明した。首脳は、これらの惨事の広範囲に及ぶ被害に直面する全ての人々との強い連帯を表明した。

PALMプロセス及び永続的なパートナーシップに向けた戦略的ビジョン

4 首脳は、日本と太平洋諸島フォーラム加盟国との間の歴史的な絆と相互信頼に裏打ちされた強固なパートナーシップに対する力強いコミットメントを新たにした。首脳は、このパートナーシップが強化され続けてきた基盤を20年以上にわたり提供してきたPALMプロセスの重要な役割を評価した。首脳は、地域の進化する機会と課題によりよく対応するため、対話と協力を通じてこの重要なパートナーシップ及びPALMプロセスを高めていくための共同の取組を強化する決意を再確認した。首脳は、PALMによる日本との対話における太平洋諸島フォーラム島嶼国の中心性に対するオーストラリア及びニュージーランドの認識を歓迎した。

5 首脳は、PALMプロセスを通じたパートナーシップの形成のための長期的

な取組が、以下の共有されたビジョンにより導かれることを確認した。

—ルールに基づく秩序を通じた安定の維持：主権の尊重、法の支配及び国際法に従った紛争の平和的解決に対するコミットメント

—永続的な繁栄の追求：開かれた市場及び貿易・投資の促進によって下支えされた自立的かつ持続可能な経済発展、強化された連結性並びに高められた社会の強靱性

—一人の往来及び交流の強化：相互理解の強化、発展の後押し及び経済活動の活性化を目的とした活発な人的交流

—地域の協力及び統合への支持：より深化した地域の協力及び統合を視野に入れた強固な地域機関の発展

6 首脳は、太平洋諸島フォーラム地域の将来を形作る上での太平洋諸島フォーラム加盟国のリーダーシップ及びオーナーシップの重要性を強調した。日本は、「太平洋地域主義のための枠組み」に示された、平和、調和、安全、社会的包摂及び繁栄を体現する地域のための太平洋諸島フォーラム首脳によるビジョンを実現するための地域協力及び共同行動に対する太平洋諸島フォーラム加盟国のコミットメントを認識した。日本は、太平洋の地域的安全、繁栄及び環境一体性を確保するため、「青い太平洋」として、共に守り、共同のアプローチをとることに対する太平洋諸島フォーラム加盟国の首脳のコミットメントを認識した。

7 安倍総理は、太平洋諸島フォーラム島嶼国のニーズを最も反映する分野において、日本の強みを活かす手段を活用し、太平洋諸島フォーラム島嶼国に対する支援を継続していくとの日本政府のゆるぎない決意を表明した。太平洋諸島フォーラム島嶼国の首脳は、自らのコミットメントを一貫して果たしてきた日本の長年の実績に謝意を表明した。

8 首脳は、日本と太平洋諸島フォーラム加盟国の間の関係の拡大及び深化のため、二国間関係の強化に資するハイレベルの相互訪問を始めとする、強化された対話及び関与を通じた継続的な取組が重要であることを認識した。太平洋諸島フォーラム加盟国の首脳は、地域における日本のこれまでの外交的プレゼンスの強化を高く評価した。

9 安倍総理は、それぞれのサブ・リージョンの共通の課題に対処するサブ・リージョナルな取組の重要な役割に留意し、こうした取組とのより緊密な連携を追求する意図を表明した。

法の支配に基づく海洋秩序及び海洋資源の持続可能性

10 首脳は、太平洋において、法の支配に基づく自由で、開かれた、持続可能な海洋秩序の重要性を強調し、それが地域の平和、安定、強靱性及び繁栄に貢献することを認識した。その観点から、太平洋諸島フォーラム加盟国の首脳は、太

平洋における協力及び発展に対し日本が（a）法の支配及び航行の自由の普及及び定着，（b）連結性の強化を通じた経済的繁栄の追求，並びに（c）海上安全及び防災の分野における協力等の平和と安定に対するコミットメントの3本柱から成る「自由で開かれたインド太平洋戦略」やそうした新しいイニシアティブを通じる等により行う積極的かつ建設的な貢献を歓迎した。

1 1 首脳は、全ての国が、航行及び上空飛行の自由その他の国際的に適法な海洋の利用を含む国際法を尊重することの重要性を改めて表明した。首脳はまた、国家が、海洋法に関する国際連合条約（国連海洋法条約）を始めとする国際法に基づき領土及び海洋に係る主張を行うとともに、自制し、武力による威嚇又は武力の行使に訴えることなく平和的方法により紛争を解決することの重要性を強調した。

1 2 首脳は、太平洋における法の支配に基づく海洋秩序を確保するため、海洋安全保障及び海上安全の分野において緊密に連携する意図を再確認した。首脳は、国境管理及び警備を含む、海上安全及び海上法執行の分野における太平洋諸島フォーラム島嶼国のための能力構築の重要性を改めて表明した。この文脈で、安倍総理は、太平洋諸島フォーラム島嶼国並びにそれら諸国の既設の機関及び枠組みと連携して実施されるものとして、海上法執行及び北朝鮮関連の国連安全保障理事会決議の履行に関する太平洋島嶼国のための能力構築プログラムの立上げを発表した。

1 3 首脳は、国家には、海洋環境を保護及び保全する義務があること、また、稀少又は脆弱な生態系、減少し、脅威にさらされ又は絶滅のおそれのある種その他の海洋生物の生息地を保護及び保全するために必要な措置をとる義務があることを強調した。

1 4 首脳は、持続可能な経済発展を促進し、食料安全保障を確保するために、海洋及びその資源の持続可能な開発、管理及び保全に対する統合されたアプローチが決定的に重要であることを改めて表明した。

1 5 首脳は、関連する環境面及び経済面の要素を考慮に入れつつ、漁業資源を科学的根拠に基づいて管理することの重要性を認識した。太平洋共同体事務局による最新の科学的な漁業資源評価に留意しつつ、首脳は、まぐろ、カジキ、サメ資源等の高度回遊性魚種の持続可能な利用を確保するために、重要事項に関する共同提案を作成し得る機会の特定を含め、中西部太平洋まぐろ類委員会における協力を継続する意図を再確認した。

1 6 漁業分野における長年の協力実績を踏まえ、首脳は、適当な場合には、太平洋の漁業資源の持続可能な利用を確保するための日本と太平洋諸島フォーラム加盟国間の互恵的な漁業取決めを通じたものを含め、漁業を発展させることを目

的とした永続的な協力関係の重要性を再確認した。この文脈で、日本は、漁業の持続可能な管理を確保するために、国連海洋法条約を含む国際法に従い、自国の排他的経済水域において水域に基づく管理を実施することへの太平洋諸島フォーラム加盟国の首脳によるコミットメントに留意した。

17 首脳は、太平洋諸島フォーラム島嶼国の主要な収入源を損なうとともに漁業資源の持続可能性を脅かす違法・無報告・無規制漁業を根絶するために、地域における既存の監視制御及び船舶監視の枠組みを考慮に入れつつ、監視制御及び船舶監視についての協力を深化させることへのコミットメントを表明した。

18 首脳は、関連する既存の法的文書及び枠組み並びに関連する国際的な、地域的な及び分野別の機関を損なうことのない、国家管轄権外区域の海洋生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する国際的な法的拘束力を有する文書を国連海洋法条約の下で作成することの重要性を強調した。

19 安倍総理は、太平洋諸島フォーラム島嶼国が法の支配に基づく自由で開かれた海洋秩序及び地域における海洋資源の持続可能性を確保することを支援するため、今後3年間で500人の能力構築措置を、必要に応じて太平洋諸島フォーラム島嶼国並びにそれら諸国の既設の機関及び枠組みとの協調の上で実施されるものとして実施するとの日本の意図を表明した。

強靱かつ持続可能な発展のための基盤の強化

20 首脳は、持続可能な開発のための2030アジェンダ、「S.A.M.O.A Pathway」、気候変動枠組条約の下で採択されたパリ協定、仙台防災枠組み（2015-2030）及び開発資金に関するアディスアベバ行動目標の世界的な実施に向けた協力の継続に対するコミットメントを再確認した。首脳は、持続可能な開発のための太平洋ロードマップを通じた地域におけるこれらのコミットメントの実施を前進させようとする太平洋諸島フォーラム加盟国及び地域的機関の取組を認識した。

21 首脳は、強靱で持続可能な発展を達成するための取組には、気候変動に対する切迫感を持った取組が必要であるとの認識を共有した。気候変動が地域、特に島嶼国の将来に与える現存する脅威及び差し迫った今日の安全保障上の課題を踏まえ、首脳は、

—世界全体の平均気温の上昇を工業化以前よりも摂氏2度高い水準を十分に下回るものに抑えること並びに世界全体の平均気温の上昇を工業化以前よりも摂氏1.5度高い水準までのものに制限するための努力を、この努力が気候変動のリスク及び影響を著しく減少させることとなるものであることを認識しつつ、継続するために、国際交渉におけるリーダーシップが果たす役割を強化する意図を表明した。

—国連気候変動枠組条約の下、2018年のCOP24で採択されたパリ協定の

実施指針を完結させるとの強固なコミットメントを改めて表明した。

－タラノア対話プロセスに積極的に参加し、パリ協定の全ての締約国のコミットメントの達成に向けた知見を共有することにコミットした。

－温室効果ガスの排出を削減し、エネルギー効率を促進し、及び太平洋諸島フォーラム島嶼国における再生可能エネルギーの比率向上のため同エネルギーの効果的利用を促進するため、投資を含む継続的な取組の重要性を強調した。

－簡素化され、改善された気候資金へのアクセスや民間部門の投資の動員を通じたものを含め、太平洋諸島フォーラム島嶼国のニーズに応じた気候変動に関する行動のため、多様な財源からの資金的支援を動員する必要性を強調した。

2 2 首脳は、強靱な開発に気候変動及び防災の考慮を統合するための取組を強化することの重要性を再確認し、太平洋地域における強靱な発展に向けた枠組みの承認における太平洋諸島フォーラムのイニシアティブを認識した。

2 3 首脳は、気候へのリーダーシップに関するマジュロ宣言で述べられているとおり、気候変動が特に島嶼国にとって最も差し迫った今日の安全保障上の脅威の一つであり、また、国連安全保障理事会を含む国連システムがこれらの課題に対応するべきであるとの認識を共有した。この点に関し、太平洋諸島フォーラム加盟国の首脳は、2017年12月に国連安全保障理事会議長国として、「国際の平和及び安全の維持－国際の平和と安全に対する複合的な現代的課題への対処－」に関する公開討論を主催した日本のイニシアティブを歓迎した。

2 4 首脳は、緑の気候基金理事会によるJICAの認証機関としての承認並びに太平洋地域環境計画事務局の緑の気候基金及び適応基金の地域実施機関としての承認を歓迎した。太平洋諸島フォーラム加盟国の首脳は、気候変動による課題に対応するための包括的な支援を継続するとの日本のコミットメントを歓迎するとともに、緑の気候基金への継続的な貢献を奨励した。

2 5 安倍総理は、「ハイブリッド・アイランド構想」の継続的な実施等を通じた低炭素開発の達成を目指す太平洋諸島フォーラム島嶼国の取組を支援する日本の意図を表明した。

2 6 太平洋諸島フォーラム加盟国の首脳は、太平洋気候変動センターの建設に向けた日本による継続的支援及び同センターを通じて提供される能力構築プログラムの発展を歓迎した。

2 7 首脳は、地震、火山噴火、津波、洪水、台風やサイクロン等の自然災害に対する太平洋地域の脆弱性に関する認識を共有し、防災、特に強靱性の構築に関する協力を促進することの重要性を強調した。首脳は、災害管理における女性に関するジェンダーに基づく訓練等のイニシアティブを歓迎し、過去の災害の経験

から得た教訓を共有することの重要性及び継続的な協調の必要性を改めて表明した。

28 安倍総理は、地域における自然災害によって引き起こされる危機の際の人道支援及び災害救援の実施を継続することにコミットした。太平洋諸島フォーラム加盟国の首脳は、最近の災害による被害を受けた国々に対するものも含め、目下行われている日本からのこの支援を歓迎した。首脳は、また、11月5日の「世界津波の日」の下での様々なイニシアティブを歓迎した。

29 持続可能な開発、環境の管理及び保全の重要性を再確認し、首脳は、
－廃棄物の環境上適正な管理及び3R（リデュース（削減）、リユース（再利用）、リサイクル（再資源化））政策、生物多様性の保全並びに天然資源の持続可能な開発の推進を含む、環境問題に対処するための包括的で統合された取組に対するコミットメントを表明した。

－全ての環太平洋諸国が、太平洋における海洋ごみ（特にプラスチック）の防止及び削減を通じ、海洋環境の保全のために積極的な取組を行う必要性を強調した。
－沈船に関連する深刻さを増す問題、特に、第二次世界大戦時の沈船及び不発弾により影響を受けている太平洋諸島フォーラム加盟国における問題に対処する重要性を認識した。

30 首脳は、持続可能な形で島嶼において廃棄物を管理するとともに陸上由来の海洋環境汚染源を削減する上での日本による太平洋地域廃棄物管理改善支援プロジェクトの価値に留意した。首脳はまた、地球規模課題対応国際科学技術協力プログラムを通じたパラオにおける珊瑚礁及び沿岸生態系の持続可能な管理に関する提言及び能力構築の成果並びにこうした取組がその他の太平洋諸島フォーラム島嶼国によって採用される潜在性を認識した。

31 首脳は、強靱で持続可能な発展を達成するための取組が、感染症及び非感染症分野を含む保健、教育、ジェンダー、情報通信技術（ICT）、貿易及び投資並びに観光の分野における協力の強化も必要としているとの認識を共有した。この観点から：

－首脳は、医療サービスの質及び太平洋諸島フォーラム島嶼国の人々の福祉を向上させるとともに、より良い診断、より良い検査、必須医薬品・医療器具及び人材育成へのアクセスを通じたユニバーサル・ヘルス・カバレッジに向けた前進を加速させるための協力の重要性を強調した。

－太平洋諸島フォーラム島嶼国の首脳は、アジア太平洋通信を通じたICT分野における日本の支援を歓迎し、同分野における更なる協力を期待した。

－首脳は、中小企業によるものを含め、貿易及び投資を促進する取組を強化する意図を表明し、太平洋諸島センター、日本貿易振興機構及び太平洋諸島フォーラム島嶼国の全ての貿易及び投資関連機関による取組を歓迎した。

一太平洋諸島フォーラム島嶼国の首脳は、地域に対して経済ミッションを派遣する日本の取組及び日本が5月17日に東京で日本・太平洋島嶼国経済フォーラムを主催したことを歓迎した。太平洋諸島フォーラム島嶼国の首脳は、ビジネス環境の改善に向けた取組を継続することに対する決意を改めて表明した。

一太平洋諸島フォーラム島嶼国の首脳は、日本・太平洋島嶼国観光大臣会合を開催するための日本の取組を歓迎するとともに、南太平洋観光組織との間のものも含め、観光セクターに裨益する具体的かつ実地的な活動に関する協力に対する日本のコミットメントを歓迎した。

32 太平洋諸島フォーラム加盟国の首脳は、地域の経済的な潜在力を完全に引き出すために、強靱で質の高いインフラ整備及び運輸交通の手段の提供を通じた地域の連結性を強化することに対する安倍総理のコミットメントを歓迎した。首脳は、港湾及び空港等、国際スタンダードにのっとり、開かれ、透明で、非排他的かつ持続可能な形で、そして、主権及び平和的利用を尊重する、質の高いインフラ整備を進めていくことの重要性を強調した。

人的交流・往来の活性化

33 首脳は、相互理解及び信頼を深化させ、それにより日本の人々と太平洋諸島フォーラム加盟国の人々との間の永続的な関係を確立するため、特に若者の間の活発な人的交流及び文化交流を通じた個人間の強い絆の重要性を強調した。

34 首脳は、日本と太平洋諸島フォーラム島嶼国の間の双方向の人々の往来を奨励するための取組について議論した。この観点から、首脳は、日本とフィジーとの間の直行便の再開を歓迎するとともに、パプアニューギニアによるミクロネシア連邦を経由した成田空港への第3の航空路に対して支持を表明した。首脳はまた、太平洋諸島フォーラム島嶼国とネットワークを構築しようとする日本の地方自治体による重要な取組を歓迎し、太平洋のカウンターパートへの直接的な関与を支持した。

35 太平洋諸島フォーラム島嶼国の首脳は、全太平洋諸島フォーラム島嶼国との関係で数次査証を導入するとの日本の決定を歓迎した。

36 安倍総理は、第二次世界大戦時の戦没者の遺骨の帰還、不発弾の除去及び政府が建立した戦没者慰霊碑の適切な維持・管理を含む、共有された過去に関する課題に対処する上での協力を継続するとの太平洋諸島フォーラム島嶼国の首脳の意図に深い謝意を表明した。首脳は、これらの課題に共同で対処することは、日本と太平洋諸島フォーラム島嶼国が未来志向の関係を構築し続けるための基盤を強固にすることにつながるとの認識を共有した。

37 首脳は、日本における2019年のラグビー・ワールドカップ及び202

0年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を踏まえ、スポーツの分野における人的交流及び協力を強化する意図を再確認した。この観点から、太平洋諸島フォーラム島嶼国の首脳は、「スポーツ・フォー・トゥモロー」のイニシアティブを通じた日本の取組を評価した。さらに、首脳は、障害者スポーツの分野等におけるスポーツ協力に関する閣僚会合の開催を検討するという認識を共有した。

38 首脳は、太平洋諸島フォーラム島嶼国における日本語教育の重要性を強調し、安倍総理は、南太平洋大学における日本語コースの立上げに向けたものを含め、この分野における支援を継続する用意がある旨表明した。太平洋諸島フォーラム島嶼国の首脳は、日本によるこのような取組を歓迎した。

39 安倍総理は、強靱で、持続可能で、自立的、な発展を支援するための効果的で永続的な手段を提供するため、日本独自の強みを活かした人材育成を太平洋諸島フォーラム島嶼国に対して提供することに対する日本のコミットメントを改めて述べた。この文脈で、太平洋諸島フォーラム島嶼国の首脳は、日本の青年海外協力隊及びシニア海外ボランティアが果たしてきた極めて重要な役割に感謝した。安倍総理は、また「Pacific-LEADS」を継続するとの日本の意図を表明した。

40 首脳は、既存の制度の下で、日本における実地研修を通じた太平洋諸島フォーラム島嶼国の人材育成を強化する可能性を追求することを決定した。首脳は、技能の向上及び太平洋諸島フォーラム島嶼国にとっての雇用機会の促進の価値について議論し、日本は、現在どのような制度があり、いかなる国が適格で、参加に当たりどのような条件があり、また、いかなる種類の職業が対象であるのかといった詳細についての情報を共有することにコミットした。

41 首脳は、2016年から続くさくらサイエンスプランを通じた科学技術分野における日本と太平洋島嶼国の間の若者の交流を歓迎した。

国際場裡における協力

42 首脳は、国際的な諸フォーラム及び多数国間機関におけるイニシアティブ及び取組に関する日本と太平洋諸島フォーラム加盟国の間の継続した協力に対する共有された謝意を表明した。

43 安倍総理は、2018年にパプアニューギニアが主催するアジア太平洋経済協力（APEC）首脳会議、2019年にフィジーが主催するアジア開発銀行年次総会、2020年にパラオが主催する我々の海洋会合等の国際会議の主催や議事運営等を通じ、国際場裡における太平洋諸島フォーラム島嶼国のプレゼンスが向上していることに対する支持を表明した。

4 4 首脳は、国連をより効率的で、透明で、説明責任のあるものにすべく改革するための国連事務総長のアジェンダを支持することに対するコミットメントを再確認した。首脳は、太平洋地域において国連の適切なプレゼンスを維持することの共通の利益を表明した。

4 5 首脳は、21世紀の国際社会の現実をよりよく反映させるため、国連安全保障理事会の正当性、実効性及び代表性の更なる向上の必要性を再確認した。首脳はまた、常任及び非常任議席双方の拡大を通じたものを含め、改革の早期実現に向けた政府間交渉に係る作業に建設的に取り組む決意を表明するとともに、第72回国連総会期間中のテキストベースの交渉の開始の必要性を強調した。太平洋諸島フォーラム加盟国の首脳は、日本が国連安全保障理事会の常任理事国となることに対する支持を改めて表明した。

4 6 首脳は、核軍縮、不拡散及び拡散対抗、通常兵器の違法取引、テロその他の国境を越える組織犯罪、暴力的過激主義、サイバーセキュリティを含む、国際的な安全保障上の課題に対処するための更なる協力の追求に対するコミットメントを強調した。首脳は、より一層の防衛及び安全保障面での交流及び協力の可能性を追求する意図を表明した。

4 7 首脳は、北朝鮮をめぐる現在の動きについての国際社会によるこれまでの全ての取組を評価した。首脳は、2018年4月下旬の南北首脳会談において発出され、朝鮮半島の完全な非核化という共通の目標を確認した「朝鮮半島の平和と繁栄、統一のための板門店宣言文」を歓迎し、来る6月の米朝首脳会談を通じ、この目標に向けた、北朝鮮による具体的な行動が示されることに期待を表明した。首脳は、北朝鮮に対して、国連安全保障理事会決議に従った具体的な行動を即時にとるように強く要請した。首脳は、国連安全保障理事会決議を完全に履行し、また執行することを含め、北朝鮮に対して圧力をかけ続けていくことに対するコミットメントを表明した。特に、首脳は、いわゆる「瀬取り」を含む北朝鮮による制裁回避戦術に対して深刻な懸念を表明し、開発パートナーによる太平洋諸島フォーラム島嶼国に対するこの取組への支援を得ながら、現時点で船舶登録上、自国が旗国となっている貿易又は漁業に従事する北朝鮮船舶の船舶登録の解除を含め、関連の国連安全保障理事会決議に従った取組を加速させていくことの必要性を強調した。首脳は、北朝鮮の、生物・化学兵器を含む全ての大量破壊兵器、弾道ミサイル及び関連施設の完全な、検証可能な、かつ、不可逆的な方法での廃棄に向けて、平和的かつ外交的な解決を追求することの重要性を強調した。首脳は、また、北朝鮮による核実験及び大陸間弾道ミサイル試験発射の中止並びに核実験施設の廃棄の発表が、これに関連する具体的な行動に早期につながることを期待した。首脳は、拉致問題の即時解決を含め、人道上の懸念に対処することの重要性を強調した。

48 首脳は、包括的核実験禁止条約の発効に向けた呼びかけを認識した。首脳はまた、核実験の探知及び太平洋における核放射能のデータの共有の可能性に関する協力のための方途を追求する意図を表明した。

PALM8会期中における協力活動

49 安倍総理は、日本が、これまでの3年間で、550億円以上を拠出し、太平洋諸島フォーラム島嶼国との間で4,000人の人材育成及び人的交流を実施することにより、PALM7での約束を達成した旨述べた。

50 安倍総理は、これまでの実績を踏まえて、従来同様のしっかりとした開発協力の実施を継続するとの日本のコミットメントを表明した。安倍総理は、持続可能性や経済的な成長可能性等の重要な要素を考慮に入れつつ、ソフトとハードの両面で太平洋諸島フォーラム島嶼国の人々と社会に直接的に裨益する、日本独自の強みを活かした質の高い支援の実施を約束した。また、安倍総理は、人材への投資が、太平洋諸島フォーラム島嶼国の明るい未来のための最も効果的、効率的で持続的な支援の方法であるとの考えの下、今後3年間で、太平洋諸島フォーラム島嶼国からの5,000人以上の人材育成・人的交流を実施するとの意図を約束した。

今後の見通し

51 20年以上にわたるPALMプロセスの下で着実に進展してきたパートナーシップの強さと強靱性に基つき、首脳は、数十年先も分かち合う未来の成功を確実なものにするために、政策対話を通じて協調と関与を強化し、本宣言で言及されている様々な分野について取り組むための真摯な努力を継続する決意を新たにした。

52 首脳は、PALMプロセスの下での進捗を監視し、フォローアップするための効果的な方法を追求し続けていくことの重要性を強調した。首脳は、PALM8の主要な成果の実施状況をフォローアップし、及び評価するとともに、PALM9に向けた準備を前進させるため、PALM9の前に第4回中間閣僚会合を開催することを決定した。太平洋諸島フォーラム島嶼国の首脳は、第4回中間閣僚会合を主催することを提案した。首脳は、2021年に日本でPALM9を主催するとの日本の提案を歓迎した。安倍総理は、PALM9の日程及び開催地については、第4回中間閣僚会合において提案するとの意図を表明した。

第8回太平洋・島サミットいわき実行委員会規約

(名称)

第1条 本会は、「第8回太平洋・島サミットいわき実行委員会」(以下「実行委員会」という。)と称する。

(目的)

第2条 実行委員会は、平成30年5月18日・19日に本市で行われる「第8回太平洋・島サミット」(以下「サミット」という。)の開催支援を通じて、本市の安全性や復興の姿を広く伝え、るとともに、本市の魅力を最大限に発信し、国際的な知名度の向上と、観光交流人口の増大を図ることを目的とする。

(事業)

第3条 実行委員会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 地元プログラムの企画・立案等に関すること。
- (2) サミット開催地としての機運醸成に関すること。
- (3) サミット開催地としての歓迎演出に関すること。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、実行委員会の目的を達成するために必要な事項に関すること。

(組織)

第4条 実行委員会は、別表に掲げる関係機関、団体等に所属する委員をもって組織する。

- 2 実行委員会に対し助言等を行うため、アドバイザーを置くことができる。

(役員)

第5条 実行委員会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 2名
- (3) 監事 2名
- 2 会長は、いわき市長をもって充てる。
- 3 副会長及び監事は、会長が実行委員会の同意を得て、委員のうちから指名する。

(役員の職務)

第6条 会長は、実行委員会を代表し、会務を総括する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代理する。
- 3 監事は、実行委員会の会計を監査する。

(任期)

第7条 委員の任期は、第1回実行委員会が開催された日からサミット開催年度の決算に係る実行委員会が開催される日までとする。

- 2 補欠の委員の任期は、前任者の在任期間とする。

(会議)

第8条 実行委員会の会議は、会長が招集し、会長がその議長となる。

2 実行委員会の会議は、次に掲げる事項について審議し、決定する。

(1) 第3条に掲げる事業に関すること。

(2) 予算及び決算に関すること。

(3) 前2号に掲げるもののほか、実行委員会の運営に係る重要な事項に関すること。

3 会長が必要と認めるときは、委員以外の者に対して実行委員会への出席を求めることができる。

(企画部会)

第9条 実行委員会に、前条第3項に掲げる事項を調査・検討するため、企画部会を置く。

2 企画部会は、会長が指名した委員をもって構成する。

3 企画部会には会長が指名した座長を置き、座長は、企画部会を代表し、会務を総括する。

4 座長が必要と認めるときは、委員以外の者に企画部会への出席を求めることができる。

5 前各項に定めるもののほか、企画部会に関し必要な事項は、会長が別に定める。

(庶務)

第10条 実行委員会の庶務は、いわき市観光交流室観光交流課において処理する。

(会計年度)

第11条 実行委員会の会計年度は、4月1日から翌年3月31日までとする。

(補則)

第12条 この会則に定めるもののほか、実行委員会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

1 この規約は、平成29年5月22日から施行する。

2 実行委員会の設立当初の会計年度は、第11条の規定にかかわらず、実行委員会が設立された日から翌年の3月31日までとする。

別表（第4条関係）

第8回太平洋・島サミットいわき実行委員会 委員

N o	団体名	N o	団体名
1	いわき市	19	小名浜機船底曳網漁業協同組合
2	いわき市教育委員会	20	東日本旅客鉄道（株）いわき駅
3	いわき明星大学	21	新常磐交通（株）
4	東日本国際大学	22	じょうばん街工房21
5	福島工業高等専門学校	23	常磐興産（株）
6	いわき商工会議所	24	福島民報社いわき支社
7	いわき地区商工会連絡協議会	25	福島民友新聞社いわき支社
8	いわき経済同友会	26	毎日新聞社いわき支局
9	いわき市行政嘱託員（区長）連絡協議会	27	読売新聞東京本社いわき支局
10	いわき青年会議所	28	いわき民報社
11	いわき市国際交流協会	29	福島テレビいわき支社
12	いわき市民間国際交流・協力団体連絡会	30	福島中央テレビいわき支社
13	いわき市文化協会	31	テレビユー福島いわき支社
14	いわき観光まちづくりビューロー	32	福島放送いわき支社
15	ふくしま海洋科学館	33	いわき市民コミュニティ放送
16	いわき産学官ネットワーク協会	34	ラジオ福島いわき支社
17	福島さくら農業協同組合いわき地区本部	35	小名浜まちづくり市民会議
18	いわき市漁業協同組合	36	いわき市医師会

参考（第4条関係）

第8回太平洋・島サミットいわき実行委員会 アドバイザー

N o	団体名	N o	団体名
1	外務省 アジア大洋州局 大洋州課	4	福島県いわき中央警察署
2	福島県 生活環境部 国際課	5	一般社団法人 太平洋協会
3	福島県いわき地方振興局	6	国際機関 太平洋諸島センター

第8回太平洋・島サミット

地元プログラム提案書

福島県いわき市

【目次】

○地元プログラム提案の考え方・提案リスト	1～2
----------------------	-----

○提案図書

A 施策型提案

A-1 農業・6次産業化の取組	3～4
A-2 被災地視察と防災への取組	5～6
A-3 産業（観光業・漁業）復興の取組	7～8
A-4 ごみ処理・リサイクルに向けた取組	9～10

B 体験型提案

B-1 特産品（かまぼこ）づくり体験	11～12
B-2 日本伝統文化体験及び地元伝統芸能鑑賞	13～14

C 交流型提案

C-1 教育を通じた子どもたちとの交流	15～16
C-2 スポーツを通じた子どもたちとの交流	17～18

○地元プログラムの考え方

○プログラム提案要素

① PALM7「7分野の協力」

- PALM7で採択された7分野（日本の支援の重点分野※P2下表参照）に焦点を当てたサミット参加国に対する日本の協力の考え方を踏まえ、島嶼国の諸課題解決の一助となるプログラムの提案

② 被災地の復興の姿

- 前回サミット開催時からさらに進んだ本市の復興の姿の発信と風評払拭を図るプログラムの提案
- 本市ならではの特色を生かして本市の魅力を伝え、知名度や都市イメージの向上を図れるプログラムの提案

③ 心に残るおもてなし

- サミット参加者の心に残るような交流や体験プログラムの提案
- 子どもたちの参加による国際理解の促進や国際化の進展、さらには外国人の旅行客へのおもてなし意識醸成を図れるプログラムの提案

96

○プログラム区分及び提案名

A 施策型提案

上記①、②のいずれか又は複数を満たすプログラム

- A-1 農業・6次産業化の取組
- A-2 被災地視察と防災への取組
- A-3 産業（観光業・漁業）復興の取組
- A-4 ごみ処理・リサイクルに向けた取組

B 体験型提案

上記①、②、③のいずれか又は複数を満たすプログラム

- B-1 特産品（かまぼこ）づくり体験
- B-2 日本伝統文化体験及び地元伝統芸能鑑賞

C 交流型提案

上記③を満たすプログラム

- C-1 教育を通じた子どもたちとの交流
- C-2 スポーツを通じた子どもたちとの交流

各提案において、子どもたちをはじめ、市民が最大限関われるよう関係機関・団体と調整を図る。

-1-

【提案リスト】

区分	テーマ	提案名	実施場所	頁
A 施策型提案	A-1 ⑤・⑦	農業・6次産業化の取組	ワンダーファーム	3～4
	A-2 ①	被災地視察と防災への取組	いわき市地域防災交流センター 久之浜大久ふれあい館	5～6
	A-3 ⑥・⑦	産業（観光業・漁業）復興の取組	小名浜港1・2号埠頭周辺 （アクアマリンふくしま、魚市場、ららミュウ等）	7～8
	A-4 ③	ごみ処理・リサイクルに向けた取組	リサイクルプラザ クリンピーの家、南部清掃センター	9～10
B 体験型提案	B-1 ⑤	特産品（かまぼこ）づくり体験	いわきかまぼこ工房	11～12
	B-2 ④	日本伝統文化体験及び地元伝統芸能鑑賞	国宝 白水阿弥陀堂、いわき市暮らしの伝承館など	13～14
C 交流型提案	C-1 ④	教育を通じた子どもたちとの交流	市内小・中学校	15～16
	C-2 ④	スポーツを通じた子どもたちとの交流	いわきFCグラウンド、21世紀の森公園 いわきグリーンベース	17～18

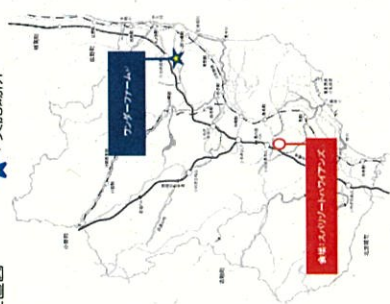
●テーマ【日本の支援の重点分野（第7回太平洋・島サミットで表明）】

- ① 防 災
- ② 気候変動
- ③ 環 境
- ④ 人的交流
- ⑤ 持続可能な開発
- ⑥ 海洋問題・漁業
- ⑦ 貿易・投資・観光

-2-

○地元プログラム提案調査

施策型提案

提案名	A-1 農業・6次産業化の取組			○位置図 ★：実施場所 
テーマ	⑤ 持続可能な開発 ⑦ 貿易・投資・観光			
対象	首脳夫妻			
実施場所	ワンドーファーム			
会場からの移動手段	車			
会場からの所要時間	移動時間：片道約30分 ※視察等の時間は弾力的に設定可能			
提案趣旨	●2016年5月にオープンしたワンドーファームは、地域産業の発展や担い手の育成を目指して、トマトの生産から加工、販売まで一貫して手掛ける6次産業化を行っている。また、ビュッフェスタイルのレストランでの地元農産物の提供や、料理教室やスポーツ大会等様々なイベントなどで誘客促進を図っており、新たな観光産業の参考になると考えられる。また、「食のおいしさと安全性」を世界に発信することで、今も残る風評の払拭を図る狙いもある。			
	●トマトの栽培は、「太陽光利用型植物工場」と呼ばれる施設で行われ、オランダから導入された土を使わないヤシガラを利用した栽培システムで、ハウス内の温度、湿度、溶液量の調整などコンピューター制御で行われており、計画的な生産が可能で状況であることから、持続的な生産につなげることができる。			
実施内容	●ワンドーファームの視察。 ●栽培施設、加工施設の状況や取組内容の説明。			
期待できる効果	島国	新たな観光産業の可能性を探る一助となる。 また、コンピューター制御による計画的な農産物の生産により、持続可能な安定した農業の実現性を高める狙いもある。		
	被災地	食のおいしさと安全性を世界に発信できる。		
備考	●ワンドーファームでトマトの収穫体験も可能。 ●また、ワンドーファームを牽引する元木代表を中心に、地元の若手農業従事者の取組状況の提供も可能。 ●子どもたちをはじめ、市民が最大限関われるよう関係機関・団体と調整を図る。			

- JRとまとランドいわきファーム
日本でも日照量の多い、いわきで、「太陽の恵みをたっぷり浴びたサンシャイントマト」を通じ、生産者と消費者を繋げたいという思いで、フルーツトマトやミニトマトなど、全部で9種類のトマトをいろいろな品種を栽培している。オランダから学んだ最新鋭の設備を備えた大型の溶液栽培温室（敷地面積2.5ha。サツカーコート3.5面分）の広大なトマトファームにおいて、トマト収穫体験が可能。



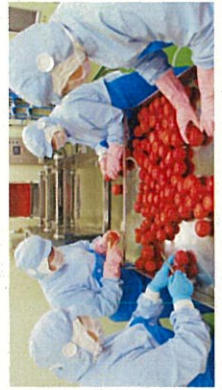
- 森のマルシェ
トマトをはじめとした地元の野菜や名産を取りそろえた直売所。カフェも併設しており、パティシエのオリジナルスイーツも販売している。



- 森のキッチン（ビュッフェレストラン）
新鮮なトマトを使った料理を中心に、地域の旬の食材を使ったメニューや本格的な石窯での焼きだてのピザを提供。木調の明るい空間でシェフ自慢の料理を楽しむことができる。



- 森のあぐり工房（加工工場）
生食用トマトを使ったジュースやピューレなどの加工工場。ワンドーファームの加工品は、ジャム、ジュースから調味料に至るまで、全てこの加工場で製造している。工場見学も可能。



〇地元プログラム提案調査

施策型提案

提案名	A-2 被災地視察と防災への取組	〇位置図	★実施場所
テーマ	① 防災		
対象	首脳夫妻		
実施場所	いわき市地域防災交流センター 久之浜・大久ふれあい館		
会場からの移動手段	車		
会場からの所要時間	移動時間：片道約 50 分 ※視察等の時間は弾力的に設定可能		
提案趣旨	●久之浜地区は、地震の後、最大 7M の津波に襲われるとともに、直後に発生した火災が翌日まで燃え続け、街の大部分が消滅した地域である。 ●平成 28 年 3 月にオープンした「いわき市地域防災交流センター・久之浜・大久ふれあい館」は、地域住民が緊急避難できる津波避難ビルであるとともに、館内の防災まちづくり資料室は震災時の状況を残す資料館として、また防災知識の普及を図るための教育施設としての機能を有している。津波被災地区において、その被害の甚大さや防災関連の取組を視察すること、地球温暖化による海面の上昇や自然災害などにより海に囲われる災害に直面しているサミット参加国の防災・減災の取組への一助となると期待できる。 ●また、本市沿岸部の復興状況や被災地で暮らす人々など、復興の姿を発信することで、原子力災害の世界的な風評払拭が期待できる。 ●津波被災地区において、津波の被害状況の視察とともに、防災緑地や防潮堤、防災無縁などの防災関連取組を視察。（時間が許せば、語り部から津波の恐ろしさや伝えてもらうことも可能。） ●復興公営住宅など、津波被災地区の復興の姿の視察。		
実施内容	島 国 防災設備の整備をはじめとした防災・減災の取組の一助と 被災地 していただく。 防災・復興の取組を視察いただくことで、本市の復興の姿や元気を発信できる。 ●隣接する「浜風さらら」は、東日本大震災により被災した町の復興と、地域の利便性向上のため平成 29 年 4 月にオープンした商業施設であり、視察可能。 ●久之浜・大久ふれあい館 2 階の防災まちづくり資料室は狭小なため、配偶者のみを対象としたプログラムに変更することも考えられる。その他、震災当時の様子を紹介する視察先としては、いわき・ら・ら・ミュー2 階のライブいわきミュージアムじあむも挙げられる。 ●さらに、屋上からは津波と火災により消失した町が再生されている様子や、建設中の防潮堤などが一望できる。（但し、屋上へのアプローチは階段のみ。） ●子どもたちをはじめ、市民が最大限関わるよう関係機関・団体と調整を図る。		
期待できる効果	島 国 防災設備の整備をはじめとした防災・減災の取組の一助と 被災地 していただく。 防災・復興の取組を視察いただくことで、本市の復興の姿や元気を発信できる。		
備考	●隣接する「浜風さらら」は、東日本大震災により被災した町の復興と、地域の利便性向上のため平成 29 年 4 月にオープンした商業施設であり、視察可能。 ●久之浜・大久ふれあい館 2 階の防災まちづくり資料室は狭小なため、配偶者のみを対象としたプログラムに変更することも考えられる。その他、震災当時の様子を紹介する視察先としては、いわき・ら・ら・ミュー2 階のライブいわきミュージアムじあむも挙げられる。 ●さらに、屋上からは津波と火災により消失した町が再生されている様子や、建設中の防潮堤などが一望できる。（但し、屋上へのアプローチは階段のみ。） ●子どもたちをはじめ、市民が最大限関わるよう関係機関・団体と調整を図る。		



震災当時の様子



震災当時の様子



市地域防災交流センター（外観）



センターの屋上



研修室（3階）



防災まちづくり資料室（2階）



防災まちづくり資料室（2階）

○地元プログラム提案調査

施策型提案

提案名	A-3 産業（観光業・漁業）復興の取組		○位置図	★：実施場所
テーマ	⑥ 海洋問題・漁業 ⑦ 貿易・投資・観光			
対象	首脳夫妻			
実施場所	小名浜港1・2号埠頭周辺 (アクアマリンふくしま、小名浜魚市場、いわき・ら・ら・ミュウ等)			
会場からの移動手段	車			
会場からの所要時間	片道約30分 ※視察等の時間は弾力的に設定可能			
提案趣旨	●市内有数の観光施設の視察と、それぞれの施設の歩みやコンセプトなどの説明を行い、サミット参加国の産業振興の参考としていただく。 ●また、いわき市は東日本大震災とその後の原発被害の影響により、観光客流入人口が震災前の年間1,000万人台から300万人台まで落ち込み、その後の官民挙げての懸命な取組により約800万人まで回復し、今後は震災前を超える水準まで達しようとして努力している。 ●水産業においては、魚市場などの漁業施設が壊滅的な被害を受け、さらには原発事故による出荷制限や風評被害を受けているにもかかわらず、復活に向けた準備を一步一步進めている。 ●このような震災からの産業復興に向けた取組を国内外にアピールすることにより、風評払拭や観光誘客の一助としたい。 小名浜港周辺のアクアマリンふくしま（パラオサンゴ礁センターの友好館）や、いわき・ら・ら・ミュウなどの施設を視察し、各施設のコンセプトや取組を説明する。			
実施内容	島 国	観光施設や魚市場などの取組を通じて自国の産業（特に観光業及び漁業）推進の一助としていただく。		
期待できる効果	被災地	本市の観光施設などをPRすることにより、本市の魅力を発信できる。		
備考	●アクアマリンふくしまは、平成30年11月、世界各地の水族館関係者が一堂に会し、研究成果の発表や情報交換等を行う第10回世界水族館会議を開催予定。 ●小名浜魚市場は、平成27年3月に整備が完了し、冷凍・加工施設の視察のほか、試験操業による水揚げがあれば、放射性物質検査の見学も可能。 ●埠頭周辺には、水産資源の保護増殖に関する試験研究・調査を行っている福島県水産試験場もあり、視察可能。 ●近隣のいわき海星高校では、(ソロモン諸島、クック諸島からの高校生文化交流を契機として震災後に結成された)地元の伝統芸能「じゃんがら念仏踊り」のチームがあり、視察先での披露も可能。 ●子どもたちをはじめ、市民が最大限関われるよう関係機関・団体と調整を図る。			

●環境水族館 アクアマリンふくしま

黒潮と親潮がであう潮目の海—アクアマリンふくしまは、福島の海の大きな特徴である太平洋の潮目をテーマに、様々な視点から海の不思議を解き明かす新しいタイプの海洋ミュージアム。

子ども体験館「アクアマリンえっく」や、「アクアマリン」おのそき子ども漁業博物館」などの施設も新設され、子ども達に海を通して「命の教育」の場を提供。また、同館は、パラオ珊瑚礁センターと友好館提携(H15提携)を行い、教育と保全に関する情報交換、飼育技術交流、水生生物交換、職員の交流を通じて協力している。



●いわき・ら・ら・ミュウ

館内はいわきの見どころ、遊びどころの情報をはじめ、せり気分で買い物ができる鮮魚店や、新鮮な海の幸を堪能できるレストラン、遊覧船のターミナルなどがあり、新しいポート小名浜の魅力を楽しむことができる。2階のライブいわきミュージアムでは、いわきの震災当時の様子から復興に至るまでを紹介する「いわきの東日本大震災展」、浮体式洋上風力発電の実証実験を映像・パネル・模型を用いて分かりやすく解説する「福島洋上風力交流センター」がある。



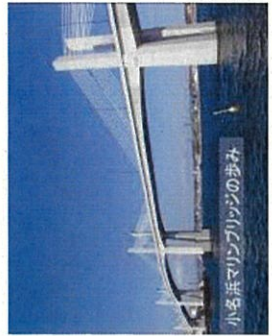
●小名浜魚市場

本県水産業の拠点である小名浜魚市場は、東日本大震災によりほとんどの建屋が崩壊した。場所を近隣に移し、生まれ変わった小名浜魚市場は、平成27年3月に竣工。地上5階建、延床面積9,000㎡。沿岸漁業の魚介類を取扱う高度衛生管理型市場と、大型漁船2隻同時に水揚げができる閉鎖型市場があり、日産500tの製氷能力と500tの貯氷能力を併せ持つ大型魚市場である。



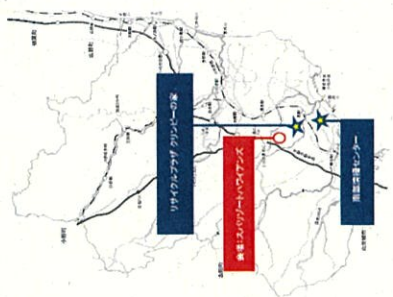
●小名浜マリナブリッジ

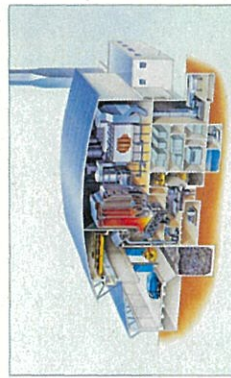
小名浜港沖合に建設されている東地区国際物流ターミナル人工島と3号埠頭を結ぶ橋で、小名浜港湾道路の一部をなす。全長927m。平成22年3月より建設が開始され、平成29年3月に竣工、同年4月13日に開通式典が行われた。橋名プレートは、いわき応援大使でもある書家・金澤翔子さんが揮毫を行った。



○地元プログラム提案調査

施策型提案

提案名	A-4 ごみ処理・リサイクルに向けた取組		○位置図	☆：実施場所
テーマ	③ 環境			
対象	首脳夫妻			
実施場所	リサイクルプラザ クリンピーの家、南部清掃センター			
会場からの移動手段	車			
会場からの所要時間	クリンピーの家：片道約10分 南部清掃センター：片道約20分 ※視察等の時間は弾力的に設定可能			
提案趣旨	●島根県では廃棄物処理システムが未成熟であり、ごみの放置や投棄が問題視されているとともに、ごみの減容化・リサイクルなどの処置をせずに、直接埋立て処分することによる問題も生じている。そのため、焼却によるごみの減容化や不用品のリサイクルを直接目にするにより、その必要性や有効性、さらには環境保全に対する理解を深めてもらう。			
実施内容	クリンピーの家や南部清掃センターなどのリサイクル・ごみ処理の関連施設を視察し、各施設のコンセプトや取組を説明する。			
期待できる効果	島	し	国	リサイクルやごみ処理などの取組を視察いただくことで 自国における環境保全の意識を高めていただく。 リサイクルやごみ処理などの取組を見せることで、本市の環境に対する意識の高さを発信できる。
	被	災	地	
備考	●クリンピーの家は、資源ごみ（缶、ペットボトル、びん、プラスチックなど）の選別機能や、楽しみながらごみの減量やリサイクルについての学習機能を有している。			
	●南部清掃センターには、小名浜港と臨海工業団地を一望できる展望台や、ゴミ焼却により発生する熱を利用した入浴施設などがある。			
	●地域でのごみ収集の方法や状況、ゴミ集積所から清掃センターへの輸送手段などについても視察可能。			
	●子どもたちをはじめ、市民が最大限関われるよう関係機関・団体と調整を図る。			



【南部清掃センター】

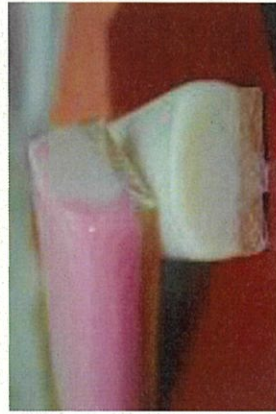


○地元プログラム提案調査

体験型提案

提 案 名	B-1 特産品(かまぼこ)づくり体験			○位置図	☆：実施場所
テ ー マ	⑤ 持続可能な開発				
対 象	首脳夫妻又は配偶者のみ				
実 施 場 所	いわさかまぼこ工房				
会場からの移動手段	車				
会場からの所要時間	片道約20分 ※視察等の時間は弾力的に設定可能				
提 案 趣 旨	●いわさきは、かつて板かまぼこの生産量が日本一であり、震災後も生産企業の尽力により、日本有数の生産量を誇っている。この日本ならではの加工食品であるかまぼこづくりを通じて、日本の食文化を体験いただくとともに、本市の特産品のPRにもつながることを期待する。 ●また、かまぼこの加工技術を視察することにより、サミット参加国において、漁業に関わる新たな産業創造の一助となることも期待できる。 ●一方、近年ではかまぼこの健康機能にも注目が集まっており、カロリーが低く、特殊なたんぱく質や不飽和脂肪酸が多く含まれるため、血糖値の上昇を抑える効果なども明らかになってきており、サミット参加国において、かまぼこの普及が国民の健康増進の一助になることも期待できる。				
実 施 内 容	かまぼこづくりを通じた日本の食文化の体験と、食品加工の技術の視察 (かまぼこづくり体験も可能)。				
期 待 可 能 な 効 果	島 国	かまぼこ加工技術等の視察により、新たな産業創造の一助としていただく。 日本の食文化を体験いただくとともに、肥満対策などの健康志向の取組みの一助としていただく。			
	被 災 地	板かまぼこ有数の生産地として、本市の特産品を発信できる。			
備 考	●かまぼこに限らず、乗馬、陶芸、紙すき、絵のぼり・だるま制作など、様々な視察・体験も可能。 ●子どもたちをはじめ、市民が最大限関われるよう関係機関・団体と調整を図る。				

かまぼこ（練り製品）は、千年以上食べつがれている日本の伝統食品の一つであり、全国各地で、いろいろなかまぼこが様々な原材料と伝承された技術によってつくられ、長きにわたり人々の健康と豊かな食生活を支えてきました。彩りも鮮やかに日常の総菜、ハレの日の伝統的な食品、贈答品などとして幅広いシーンで利用されています。かまぼこは、お魚のタンパク質から作られた、高タンパクで低カロリーのヘルシー食品で、その魚のタンパク質は、からだに有用な20種類のアミノ酸の完璧なバランスでつくられているため、消化もよく、カラダの中に効率的に吸収され、多くの栄養機能性を持つことも知られております。
(出典：全国かまぼこ連合会HPより)



○地元プログラム提案調査

体験型提案

提案名	B-2 日本伝統文化体験及び 地元伝統芸能鑑賞			○位置図	★ 実施場所
テーマ	④ 人的交流				
対象	配偶者のみ				
実施場所	国宝 白水阿弥陀堂、 いわき市暮らしの伝承郷など				
会場からの 移動手段	車				
会場からの 所要時間	片道約 15 分～20 分 ※視察等の時間は弾力的に設定可能				
提案趣旨	● 県内唯一の国宝建築物である白水阿弥陀堂、かつてのいわきの民家や農村景観を再現した暮らしの伝承郷、枯山水式庭園を有するきもの乃館丸三などで、着物の着付け体験や、いわきの伝統芸能である「じゃんがら念仏踊り」鑑賞などを通じ、日本文化を感じてもらおう。				
実施内容	白水阿弥陀堂など和風の庭園や施設等において、着物の着付けや和楽器演奏の体験や、「じゃんがら念仏踊り」の鑑賞を通じて日本の歴史・文化・伝統を感じていただく。				
期待できる効果	島 国	着物の着付け体験などを通して日本文化を感じていただく。			
	被災地	本市所在施設における日本文化の体験を通して、本市の魅力を発信できる。			
備考	● じゃんがら念仏踊りは、子ども（小学生及び中学生）の踊り手のみで構成された「こどもじゃんがら」や地元高校のじゃんがらチームによる披露も可能。 ● 和楽器演奏についても、中学生や高校生の部活動・クラブ活動として実施している団体等との交流を予定。 ● 日本伝統文化体験としては、陶芸・茶道の体験やその体験を通じた中学生との交流も可能。				



国宝 白水阿弥陀堂



いわき市暮らしの伝承郷



映画「超高速！参勤交代リターンズ」でのじゃんがら念仏踊りの撮影シーン（いわき市暮らしの伝承郷にて）



じゃんがら念仏踊り（いわき海星高校）



着物着付け体験



茶道体験



きものの乃館 丸三

○地元プログラム提案調査

交流型提案

提 案 名	C-1 教育を通じた子どもたちとの交流			○位置図	：実施場所
テ - マ	④ 人的交流				
対 象	首脳夫妻又は配偶者のみ				
実 施 場 所	市内小・中学校				
会場からの移動手段	車				
会場からの所要時間					
提 案 趣 旨	●小中学校における学習以外の学校生活に焦点を当て、児童生徒による給食の準備や後片付け、教室等の清掃などを見ていただき、子どもたちと一緒に給食を食べ、子どもたちと一緒に教室の清掃を行うことで、自分の身の回りのことは自分で行うことの習慣づけや環境に配慮する心を育む日本の教育現場を体験してもらう。 ●子どもたちと一緒に自ら体を動かして食事や清掃をすることにより、島嶼国で課題の1つとなっている環境問題に対する意識の醸成はもちろんのこと、島嶼国における教育現場でのアイデア提起（島嶼国でも学校のカリキュラムに掃除の時間を導入するなど）の一助とする。				
期待できる効果	島 嶼 国	清掃や整理整頓の大切さを訴えることにより、常日頃から地域の環境に配慮する意識の醸成を図る。 また、自ら体を動かすことが肥満対策に繋がること、身の回りを整えることが心地よさにも寄与することを理解いただく。			
	被災地	常日頃当たり前のように行っている清掃を各国関係者に示すことで、学校や地域への帰属意識を高めるとともに、子どもたちが各国関係者と触れ合いを通し、国際理解の更なる促進を図ることができる。			
備 考	●子どもたちをはじめ、市民が最大限関われるよう関係機関・団体と調整を図る。				



校内清掃の様子



いわき市の約9割の小学校でひざ当てを採用



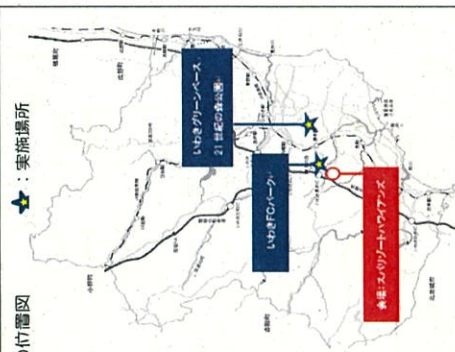
ミクロネシア連邦議会議長による藤原小学校訪問の様子（平成28年3月）



○地元プログラム提案調査

交流型提案

提 案 名	C-2 スポーツを通じた子どもたちとの交流				
テ ー マ	④ 人的交流				
対 象	配偶者のみ				
実 施 場 所	いわきFCグラウンド、 いわきグリーンベース 21世紀の森公園				
会場からの移動手段	車				
会場からの所要時間	いわきFCパーク：片道5分 21世紀の森公園：片道10分				
提 案 趣 旨	●市内初の地域密着型プロスポーツチームを目指すいわきFCのホームタウンとして、地域全体でチームを支え応援する体制づくりや、スポーツによる人・まちづくりを目指す本市の取組を示すことで、各国のスポーツ振興、まちづくりの参考と一助とする。 ●肥満は島嶼国が長年抱えている問題の一つであることから、スポーツ少年団等による子供たちのスポーツ活動を視察し、子どもと一緒に簡単な運動をすることにより、子どもの頃からスポーツに親しみ運動習慣をつくれることが将来の肥満予防や肥満対策につながることを理解していただく。 ●また、島嶼国の一部（サモア、フィジー、トンガなど）で盛んなラグビーを通じ、2020年東京オリンピックに向け、共同議長国であるサモアのホストタウンとなっている本市の取組等も併せて国内外にアピールすることで、本市が東京オリンピックにかけける思いを訴える。				
期待できる効果	<table border="1"> <tr> <td>島 嶼 国</td><td>スポーツや体を動かすことが肥満対策に繋がること、ひいては、自らの健康は自らで確保するという意識の醸成を図る。</td></tr> <tr> <td>被 災 地</td><td>子どもたちが各国関係者と触れ合いを通し、国際理解の更なる促進を図ることができる。</td></tr> </table>	島 嶼 国	スポーツや体を動かすことが肥満対策に繋がること、ひいては、自らの健康は自らで確保するという意識の醸成を図る。	被 災 地	子どもたちが各国関係者と触れ合いを通し、国際理解の更なる促進を図ることができる。
島 嶼 国	スポーツや体を動かすことが肥満対策に繋がること、ひいては、自らの健康は自らで確保するという意識の醸成を図る。				
被 災 地	子どもたちが各国関係者と触れ合いを通し、国際理解の更なる促進を図ることができる。				
備 考	高校生をはじめとした子ども達が最大限関われるよう関係機関・団体と調整を図る。				



いわきグリーンベース（外観）



いわきグリーンベース（内観）



21世紀の森公園



いわきFCパーク



ホストタウン交流事業「駐日サモア独立国大使による学校訪問」の様子（平成29年10月）



（公財）日本財団パラリンピックサポートセンター主催事業「あすチャレ！スクール」の様子

第 8 回太平洋・島サミット 16 の太平洋島しょ国・地域と日本、オーストラリア、ニュージーランドの計 19 国・地域が参加。18 日は国賓・白木阿弥昭室での昼食会、東日本大震災の慰霊行事などを予定。19 日は首脳会議が開かれるほか、海岸シンポジウムも開かれる。



第 8 回太平洋・島サミットの参加国

いわき、あす開幕

第 8 回太平洋・島サミットが 18 日、いわき市で開幕する。開会式には、いわき市長、関係者、記者らが参加する。開会式では、サミット開催を記念した「第 1 回太平洋・島サミット」の開催を祝う花火が打ち上げられる。

島サミット 広報紙に

「サミット」の開催を記念し、いわき市が「サミット」の開催を祝う花火が打ち上げられる。

高校生、盛り上げ



第 8 回太平洋・島サミットの開催を記念し、いわき市が「サミット」の開催を祝う花火が打ち上げられる。



第 8 回太平洋・島サミット
2018.5.18(金)・19(土)

あす太平洋・島サミット開催

安倍首相ら 18 国トップ来市

日本や太平洋島しょ国、洋・島サミット」が 18 日の首脳が集まり、気候変動 19 日、常務藤原町のホテルや安全保障などについて、ルハウィアンスをメインで話し合う「第 8 回太平洋・島サミット」が開催される。

安倍首相をはじめ 18 国、のトップらが訪れ、19 日午前には首脳会議・共同記者会見が予定されている。

残り 1 日となった市役所前の掲示

い。いわき市が会場と、二国間会議を実施し、なるのは 27 年 5 月の前回、夜には安倍首相主催の晩に続いて 2 度目、東日、さん会が催される。

19 日午前には島サミット、本大震災からの復興を世に並び、ふくしま海洋、科学館「アキアマリ」ふくしまで、配偶者向けプログラム、海洋シンポジウムが行われる。同日午後には引き続き二国間、に J.R. 湯本駅に到着。国会談が組まれているほか、宝日水阿弥昭室(雨天時、主催で、四倉町のワン、掘知事による昼食会に参、ターファームを視察する。

太平洋島しょ国の関係者は島サミットに先立ち、来日しており、都内で首脳会議や外相会議が開かれていたほか、16 日には東京・両国の国技館で大相撲を観戦した。

島サミット成功誓う

都内でレセプション



開が18、8の国・

都内で、河野と外相
大隈、主筆レザン・ンが
同乗して、参加国、地域の
関係者が、日本の発展、友好
を願つて、祝辞を述べた。

約30人の閣内、閣外、河野
氏ら、首相の閣内、閣外に
関係地、なない、都市に
ついて、東日本大震災から
の復興を願つて、人々の話
もあつた。



本原産の日本酒で乾杯する河野外相（中央）と各国・地域の首脳ら

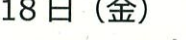
[illegible]A small, vertical photograph of a man in a light-colored suit and tie, waving his right hand. He is standing in front of a yellow wall.

本原産の日本酒で乾杯する

食に含まれ、放射能汚染の基準値、厳格な検査制度を紹介した。

本県の銘酒振興の舞う
2月18日、日本酒、準備町、堀井雅世さん
多摩市生まれ、19歳で長女が出席する予定。

島サミン
通知事

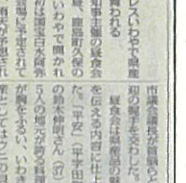


馬 並 し

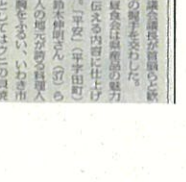
本市で太平洋・



開

[illegible]

市人から受け方 紙



ようこそいわきへ

いわき市で18日開幕した第8回太平洋・島サミット。この機会に、いわき市を訪問した各国・地域の首脳や、市民と交流する機会が得られる。いわき市は、この機会に、いわき市を訪問した各国・地域の首脳や、市民と交流する機会が得られる。いわき市は、この機会に、いわき市を訪問した各国・地域の首脳や、市民と交流する機会が得られる。

第8回太平洋・島サミットは、18日午後、いわき市・スパリゾートハワイアンズで開幕した。この機会に、いわき市を訪問した各国・地域の首脳や、市民と交流する機会が得られる。いわき市は、この機会に、いわき市を訪問した各国・地域の首脳や、市民と交流する機会が得られる。



ありがとう



島サミット会場に到着した各国・地域首脳を歓迎する中学生ら＝18日午後、いわき市・スパリゾートハワイアンズ

知事主催宴会会場で各国・地域首脳らを迎えた。18日午後、いわき市。各国・地域の首脳や、市民と交流する機会が得られる。いわき市は、この機会に、いわき市を訪問した各国・地域の首脳や、市民と交流する機会が得られる。

第8回太平洋・島サミットは、18日午後、いわき市・スパリゾートハワイアンズで開幕した。この機会に、いわき市を訪問した各国・地域の首脳や、市民と交流する機会が得られる。いわき市は、この機会に、いわき市を訪問した各国・地域の首脳や、市民と交流する機会が得られる。

第8回太平洋・島サミット

持続可能、拉致解決と首脳宣言採択

The Eighth Pacific Islands Leaders Meeting (PALM8)

安倍首相と太平洋島しょ国首脳による記念撮影＝19日午前9時56分、常備随員町のホテルハワイアンズ

安倍首相は18日午後、いわき市・スパリゾートハワイアンズで開幕した第8回太平洋・島サミットに出席した。この機会に、いわき市を訪問した各国・地域の首脳や、市民と交流する機会が得られる。いわき市は、この機会に、いわき市を訪問した各国・地域の首脳や、市民と交流する機会が得られる。

安倍首相は18日午後、いわき市・スパリゾートハワイアンズで開幕した第8回太平洋・島サミットに出席した。この機会に、いわき市を訪問した各国・地域の首脳や、市民と交流する機会が得られる。いわき市は、この機会に、いわき市を訪問した各国・地域の首脳や、市民と交流する機会が得られる。

第8回太平洋・島サミット

「第8回太平洋・島サミット」が、18日(土)に、いわき市にある「いわき市立総合体育館」で開会式が行われ、約100名の参加者で始まった。開会式では、佐々木 隆雄市長が挨拶を行い、本日のサミットが、太平洋地域の平和と発展に貢献することを期す旨を述べた。

本日のサミットは、午前10時から午後5時まで行われ、開会式後、各参加国代表によるパネルディスカッションが行われた。パネルディスカッションでは、太平洋地域の環境問題、経済協力、文化交流などについて、各代表が意見を述べた。

また、本日のサミットでは、各参加国代表によるパフォーマンスも行われた。パフォーマンスでは、各参加国の伝統的な踊りや音楽が披露された。

本日のサミットは、いわき市立総合体育館で開会式が行われ、約100名の参加者で始まった。開会式では、佐々木 隆雄市長が挨拶を行い、本日のサミットが、太平洋地域の平和と発展に貢献することを期す旨を述べた。

本日のサミットは、午前10時から午後5時まで行われ、開会式後、各参加国代表によるパネルディスカッションが行われた。パネルディスカッションでは、太平洋地域の環境問題、経済協力、文化交流などについて、各代表が意見を述べた。

また、本日のサミットでは、各参加国代表によるパフォーマンスも行われた。パフォーマンスでは、各参加国の伝統的な踊りや音楽が披露された。

第8回太平洋・島サミット

海洋資源 環境保全に関心

アクアマリンでシンポジウム出席

「第8回太平洋・島サミット」で来津している会津県立アクアマリンの職員らも、本日のサミットに参加し、海洋資源の持続可能な利用と環境保全について、各参加国代表と意見交換を行った。

アクアマリンの職員らは、本日のサミットで、海洋資源の持続可能な利用と環境保全について、各参加国代表と意見交換を行った。また、本日のサミットでは、各参加国代表によるパフォーマンスも行われた。パフォーマンスでは、各参加国の伝統的な踊りや音楽が披露された。

夫人は、本日のサミットで、海洋資源の持続可能な利用と環境保全について、各参加国代表と意見交換を行った。また、本日のサミットでは、各参加国代表によるパフォーマンスも行われた。パフォーマンスでは、各参加国の伝統的な踊りや音楽が披露された。

本日のサミットでは、各参加国代表によるパフォーマンスも行われた。パフォーマンスでは、各参加国の伝統的な踊りや音楽が披露された。



またシンポジウムでは、海洋資源の持続可能な利用と環境保全について、各参加国代表と意見交換を行った。また、本日のサミットでは、各参加国代表によるパフォーマンスも行われた。パフォーマンスでは、各参加国の伝統的な踊りや音楽が披露された。

太平洋・島サミット閉幕 いわき 復興の着実な進展確認



人材育成で開発協力 表明

【いわき市】太平洋・島サミットが20日、いわき市で閉幕した。首相は閉幕式で、島嶼国との関係強化と、人材育成、開発協力などについて、改めて表明した。

首相は閉幕式で、島嶼国との関係強化と、人材育成、開発協力などについて、改めて表明した。首相は閉幕式で、島嶼国との関係強化と、人材育成、開発協力などについて、改めて表明した。

首相は閉幕式で、島嶼国との関係強化と、人材育成、開発協力などについて、改めて表明した。首相は閉幕式で、島嶼国との関係強化と、人材育成、開発協力などについて、改めて表明した。

首相は閉幕式で、島嶼国との関係強化と、人材育成、開発協力などについて、改めて表明した。首相は閉幕式で、島嶼国との関係強化と、人材育成、開発協力などについて、改めて表明した。

首相は閉幕式で、島嶼国との関係強化と、人材育成、開発協力などについて、改めて表明した。首相は閉幕式で、島嶼国との関係強化と、人材育成、開発協力などについて、改めて表明した。

首脳宣言 原発事故は明記せず

【いわき市】太平洋・島サミットが20日、いわき市で閉幕した。首相は閉幕式で、島嶼国との関係強化と、人材育成、開発協力などについて、改めて表明した。

震災教訓 継承誓う



【いわき市】太平洋・島サミットが20日、いわき市で閉幕した。首相は閉幕式で、島嶼国との関係強化と、人材育成、開発協力などについて、改めて表明した。



【いわき市】太平洋・島サミットが20日、いわき市で閉幕した。首相は閉幕式で、島嶼国との関係強化と、人材育成、開発協力などについて、改めて表明した。

北非核化へ監視強化



【いわき市】太平洋・島サミットが20日、いわき市で閉幕した。首相は閉幕式で、島嶼国との関係強化と、人材育成、開発協力などについて、改めて表明した。

【いわき市】太平洋・島サミットが20日、いわき市で閉幕した。首相は閉幕式で、島嶼国との関係強化と、人材育成、開発協力などについて、改めて表明した。

平成 30 年 12 月発行